

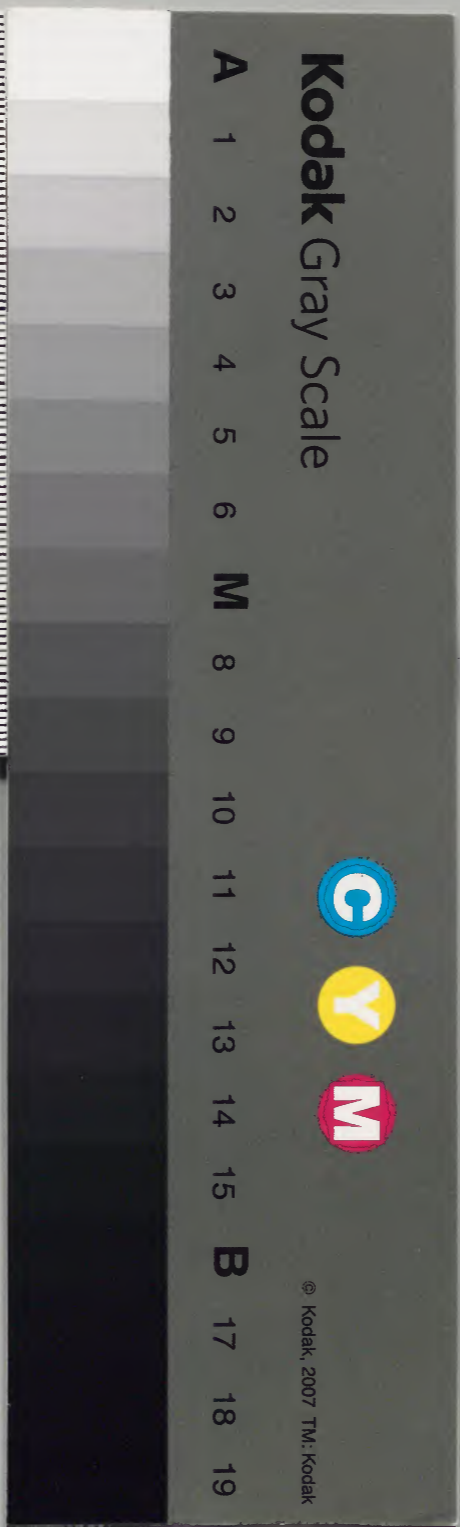
日本書紀傳 廿二卷七

和書
一〇五二號

七十一

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156 (81)	
函號	特 85	1

二二六八之卷



教
部
省
文
庫
印

清
文
庫
印

瓊
文
庫
印

瓊文會にて掌中の置せ給へるあり此ハ唯其瓊綸を
解はる任ハ左掌に置せさせ給へるにて少々異あり
氣噴之狹霧所生と有よ加ざるあり又傳十五 百九十九
百三十一 己に註るが如く其第二一書に見えたる状に
三女神の物根ハ瓊あり五男神の物根ハ瓊ありと此
等ハ共に誤れり傳ふれば心を著て考ふ可き所あり
あり○正哉吾勝、速日天忍穗根尊ハ前章第一一書
ハ正哉吾勝ニ速日天忍骨尊と作り己より云ふ如
く此ハ其第一一書と同じ傳あるに其生出坐一御狀

○日本書紀傳二十二

○三百四十一

内一二六八三號

日本書紀傳 二十卷ノ卷七
五十貳枚 山内正直

二十ノ七
各拾二葉校合大島深澤

伯國造志賀高
 穴穗朝御世以年邪
 志國造同祖兄弟
 毛比命兒大八木
 是元定賜國造
 又大島國造志賀高
 穴穗朝御志國造
 兄弟毛比命兒穴穗
 古命定賜國造
 有、此、周防國大
 島郡の事と、
 此を以見

無邪志國造上祖大多毛比知、夫國造上祖天(下)上腹
 天下腹人等と見えたる、大多毛比と云人は是あり可し
 又國造本紀、相武國造志賀高穴穗朝武刺國造祖神
 伊勢都考命三世孫弟武考命定賜國造と有、其伊勢
 都考命ハ出雲臣譜ハ津狹命の子櫛既前命有り御鎮
 座傳記ハ櫛玉命亦曰瓊瓦と有り即伊勢都考命の事
 あり此ハ依れば右の兄多毛比ハ伊勢都考命の末子
 りけり又胸刺國造岐用國造祖兄多毛比命兒伊狹知
 直定賜國造と見え又菊麻國造志賀高穴穗朝御代无
 邪志國造祖兄多毛比命兒大鹿國直定賜國造と見え

ハと所恩の事ハ神
 名式ハ播羅郡田中神
 社其ハ今三箇尻脚
 と云ハ御在坐
 坐す右云ハ如く
 伊勢都考命の祖伊勢
 都考命ハ志賀命
 と云名有と以て胸刺
 の地此ハ在と知ハ

たれば其武蔵國造と任され奉り一兄多毛比命の子
 五人有て一ハ胸刺一ハ菊麻と三國ハ分れたり一者
 ありけり但胸刺ハ武蔵國の内ありけむを今何方か
 りとも知べしとざるが无邪志國造知夫國造知
 夫國造と三相並びたるハ共ハ今の武蔵國一國ハ
 を其より上ある相武國造師長國造と云有、序を以
 推すハ无邪志ハ和名枚郡名の久良都筑多磨橋樹在
 原豊島足立新座入間ふどの地相接續きたれば此を
 云ふ、可し胸刺ハ高麗比企横見埜玉大里男長幡羅
 榛澤那珂兒玉賀美ふどの地是あり可く知、夫ハ秩

今大直道八日本後
 紀小弘仁二年九月出
 羽國人死邪志直勝
 大伴部廣勝賜姓
 大伴直と有る是示
 カ聖異記中巻示
 大伴赤麻呂者武
 藏國後磐郡大領
 也以天平勝室元年
 己丑冬十二月十九日
 死亡と有る此と大
 伴直の族と有る事
 云と更なる又續
 紀小弘仁六年三月
 武藏足立郡末女帝
 侍前神從四位下
 類史延壽十四年十
 二月武藏武藏國足立
 郡大領外後五位下
 武藏高祢弟總為
 國造と有る右同
 ドウと有る然

武藏國後磐郡大領

父郡あり可事云り更あり然るを景行天皇四十年
 御紀より日本武尊の自甲斐北轉歷武藏上野と有る其
 三を一の合せたる後より云るめて當昔已に然る小
 ハ非ず 武藏國の名義ハ其傳に就て説べし續紀神護
 景雲元年御紀に十二月壬午武藏國足立郡人
 外後五位下大直道不破麻呂等六人賜姓武藏高祢甲
 申外後五位下武藏高祢不破麻呂為武藏國國造と有
 り以見れば其天穗日命の流ハ已に當時絶て大部直
 高祢人國造ハ被成たり高祢命之後者ハ有る是
 姓和泉國ハ大部首膳杵磯丹杵穗命之後者ハ有る是
 高祢と有る同録河内國神別天神ハ氷連石上朝臣同祖
 饒速日命十世孫伊已灯宿禰之後也と今て今其神
 主ハ物部氏有る其武藏國造の未あり可し讀耕集ハ
 大宮駅此地有氷川神足立即氷川社即是到今祠官物
 部姓也と云りと云る然るハ武藏國惣國風土記ハ氷川
 猶次ハ本一別也

神社神田百束十字田四圍觀松彦香殖稻天皇孝御宇
 三年戊辰所祭素戔鳴尊大己貴奇稻田比咩合三座也
 と有る此如くハ甚己くより出雲國より移り住ハ
 が國造本紀に依り成務天皇朝御世に國造ハ被成
 たりありけり神名帳頭註又兼永本朱書入ハ一宮日本武尊東征之
 時勸請素戔鳴尊也と有る此ハ社傳あり可事ハ此二
 と合せ思ふハ其孝昭天皇三年に勸請れりとの日本武
 尊の東征の御祈共のこゝを謂ゆる官社とハ成坐有つとむと然るハ傳へたるハ
 傳二十三件ハ之つ考合ナ可し
 ころ神名式ハ横見郡伊波比神社入向郡出雲伊波比
 神社男衾郡出雲乃伊波比神社あり御在し坐あり

姓氏録 左京神別 入間高祢天穗日命十七世孫天日

古曾乃己呂命之後也と有ハ此の武蔵国造（右云）と聞ケ大

同類聚方（如）入間藥武蔵国入間縣主方と有と以て思

ふよ右の出雲伊波比神社ハ其氏神あるよて天穗日

命を祀れ（同郡中氷川神社ハ属ナリ即社）此神を然申テ所以ハ天孫降臨

章第一一書ハ大己貴神の御事ハ就て又當主汝祭祀

若天穗日命是七と有ハ更あり出雲神賀詞ハ伊波比

乃返事と云事の有ハ熊野杵築兩神宮を祀祭給へる

ハ同れハ神名あれバ右の伊波比神社ハ三所共ハ決

めて天穗日命ハ御在し坐テ可（可）を頭注（注）ハ男衾郡出

雲乃伊波比神社を大己貴命也と云ハ若クハ其相殿

ふとハ祀祭れハを以て本座の天穗日命を失へハ傳

ふ可（可）又關根孝熙（堀五郎）が隨筆（太田莊）御鷹宮村ハ武

外鷹宮神社有リ相傳ふ国造土師連の別業ありハ地

あり其地方ハ祭れハを姫宮と云ハ国造の土師宮

と云けるを詠りて鷹宮と云りと古老（右の笠原五ハ申有て思ゆ）之（有）ハ備

土師氏ハ傳十五（二百六）註（ナ）ハ如ク其ハ出雲巨の

氏族よて武蔵国造と同ド出自ありハ後ハ土師

を名乗れハ必有つるよて今ハ江戸の淺草ハ三社

権現と申奉れるハ其天穗日命を祀りて土師氏の代

公安南天皇元年即紀
武蔵国造笠原直
使主與同族小杵相
争国造之と見え
たる笠原ハ和名枚
御名ハ埼玉郡太田
赤保太笠原加佐政
良と有ハ是あり
此ハ統て今思出け
るハ

△物部直統
速日命の物部直
とハ別シテ天穂
日命の裔ナリ
藏國造の統
思混テ可ナク

△下三河四十九島
津國造の所註
事共ニ合考小
可シ

仕奉れ、ふどを以思ふより決めて其武蔵國造の
支族多く蕃息れ、若と所見たり
又神名式入間郡
よ就て統紀を見る、神護景雲二年秋七月壬申朔壬
午武蔵國入間郡人正六位上勲五等物部直廣成等六
人賜姓入間宿禰と有、右の入間宿禰と出自異、
て同氏あり右、武蔵國造は物部氏あり有、如
く入間宿禰は物部氏と二有ありけり又神名式は
播羅郡田中神社有と或説は三箇尻郷宮鳥村天神宮
是なりと云り其ハ和名扱ハ無クして後の御名は
れども三箇尻ハ右より引、御鎮座傳記は櫛玉命亦曰
魁尻ハ所見たり伊勢郡彦命を祀れ、社名は此
を以て胸刺ハ武蔵とハ別、播羅郡辺の地と云、
據あり、○又天穂日命の御裔の古事記ハ所見たり
似たり
ハ右の出雲天邪志二國造の外ハ上菟上國造下菟上
國造伊自牟國造津島縣並遠江國造等之祖也と有て

△此命天穂日命
十一世孫武蔵
國造の兄多毛比
命の祖父也其兄
多毛比命の子五十
狹茅と云、伊勢
武上海上國造不
任、其季より系
記ハ見えたり即

已に記傳七卷委しく説れたるが如し今採て其書し
置ずてハ下に至りて滞る事もや有らば故今も云べ
し其上菟上國造ハ國造本紀ハ上海上國造志賀高穴
穂朝天穂日命八世孫忍之化多比命定賜國造と有、
神功皇后元年御紀ハ亦推ハ女尊誨之曰吾欲居活田長峽
國因以海上五十狹茅令祭と有、此人決めて其子
り其國造本紀ハ胸刺國造岐前國造祖兄多毛比命兒
伊狹知直定賜國造と有、を合せて思ふ其系譜ハ依て天穂日命十一世孫忍之
化多比命子健佐都彦命子
キリ然れども其父兄多毛比命ハ也、武蔵國造其
子五人有り第一子率殺知ハ上海上國造也其子角久比直子三人有り長子ハ長止宿
上ハ其二國と兼べ、非又岐前國造ハ次子引、
右直ハ海上直檜前舍人直刑部直工能宿禰大伴登美宿禰大伴直の祖也引、

公但海上郡令八無
きを神名式海上郡
神崎神和名抄
同郡島丸郡御有
因て地を求る今
島野村古の島丸
神あり又物誌

久都伎直上海上國造他田日奉直大郡直の祖より李子武田直十葉國造大私部事
如く天津彦根命の末あり何れ誤傳有る事
との祖と有る
と所見なり万葉七十五丁夏殊引海上瀧乃奥津洲尔
鳥者實竹跡君者音文不為又十四丁三上總國歌の奈都
素妣久宇奈加美我多能於伎都諾尔布祢波等杵米年
佐欲布氣尔氣里と有り和名抄郡名の上總國海上宇
奈加美と有る是より
然るに神護景雲元年即紀の九
月己巳上總國海上郡人外後五
位下橋前舍人直建麻呂上總高祿と云事有る姓氏録
左京神別下天孫の橋前舍人連大明命十四世孫波利
那也乃連公之後也と
有れ此と別あり下菟上國造八國造本紀の輕下
海上國造輕島豐明朝即世上海上國造祖孫久都伎直
定賜國造と有り但延佳説の造下祖上疑脱同字と云

常陸凡記久慈郡
傳の即東七里太田即
之自北以北薩都
里古有國極名曰土
雲爰知上命發兵
誅滅時能令殺福
哉所浴因名佐都
と有り免上命上
海上國造の事

り即和名抄郡名の下總國海上宇奈加美と有る是より
次に伊自牟國造八國紀の伊芑國造志賀高穴穗朝
却世安房國造祖伊許保止命孫伊己呂止直定賜國造
と有り是將同祖の同字と脱せし者あり其次に阿
波國造志賀高穴穗朝却世天穗日命八世孫弥都侶岐
命孫云々と所見なれば此と之あり安閑天皇元年即
紀の夏四月癸丑朔内膳御膳巨大麻呂奉勅遣使求珠
伊芑伊芑國造等詣京逢晚踰時不進膳巨大麻呂大怒
收縛國造等推問所由國造稚子直等恐懼逃匿後宮内
寢春日皇后不知直入驚駭而顛慚愧無已稚子直等兼

△此地乃德志科小直
生郡一宮村南總田
推本中原東の地百の
夷瀨郡ありと云々
神名云々

△下三而六十豊國造
の下に註事共有
り考合を可し大
同類聚方士卷の
不射樂伊志國
造等之用下流久
須利内膳御膳
臣大森呂之方云
又抄自美草伊
且國造等之用
宇流久須利内膳
御膳臣大森呂云
奏方云と所見
カ

△已く絶やしもや
為たりけし物
又ハ高魂尊五
世孫と云ハ傳の誤
多クヤ文徳天皇
寶錄天安元年
六月の下對馬
下縣郡擬大領
直津王三代寶
錄小同二年十月
の下對馬下縣
郡擬大領外
大初位下直氏成
上縣郡擬少領元
位直仁徳と云
ハ此縣直と云可
一其外ハ

坐闌入罪當科直謹專為皇后獻伊甚屯倉請闌入之罪
因定伊甚屯倉今分為郡^{郡名}上總國と所見^{郡名}
上總國夷瀨伊志美と有り^{其外}津島縣直ハ國造本紀
此氏人の事更に物見當らず△
ハ津島縣直檀原朝高魂尊五世孫建弥己己命改為
直と有り此ハ天穗日命の裔ならず又高魂尊五世孫
と云時ハ檀原朝より當り可けれども改為直と云
ふと甚し心得難き事共ふれバ己よ其傳を亡へるよ
や神名式ハ對馬島上縣郡小枚宿祢命神社見えり
彼記ハ天菩比命之子建比良鳥命と有り神名ハ女
由有げふれとも猶定の難き事みふ<sup>又姓氏錄攝津
國神別天神ハ</sup>

津島朝臣大中臣朝臣同祖津速魂尊三世孫天兒屋根
命之後也又未定雜姓攝津國ハ津島直天兒屋根命十
一世孫雷大臣命之後者不見ふども遠江國造ハ國造
有て天穗日命の流ありハ所見ず
本紀より出たれども此天穗日命の御末ハ非ず遠淡
海國造志賀高穴穗朝以物部連祖伊香色雄命兒印岐
美命定賜國造と有り更に據と為べき事みふ無りけ
ると強て此と^探索よ神名式ハ遠江國城飼郡比奈多
乃神社見えり彼記の建比良鳥命と崇神天皇六十
年御紀ハ武日照命<sup>一云武夷鳥
又云天夷鳥</sup>と所見たり日照又夷
鳥と同一と意を得て思ふ其社土方郷^{ヒヤ}日向谷と
云地ハ在て謂ゆる高天神と云山の麓ハ御在^{タカアヒ}一坐す

此地高魂志科小種
生郡一宮村南總田
推木中原泉の地百の

△下三而六十丁豊臣造
の下に註す事共有
り考合を可しり大
同類聚方十卷の
不射禦伊志國
造等之用千流久
須利内膳御膳
臣大藤呂之方云
又抄自美芝伊
且國造等之用
宇流久須利内膳
御膳臣大藤呂云
奏方云と所見
なり

△已く絶すともや
為たりけし物
又ハ高魂尊五
世孫と云ハ傳の誤
多あり文徳天皇
寶鏡天安元年
六月の下小對馬
下縣郡擬大領
直神主三代寶
録小同二年十月
の下小對馬下縣
郡擬大領外勸
大初位下直氏成
上縣郡擬少領元
位直仁徳と百
ハ此縣直と云可
一其外ハ

坐蘭入罪當科重謹專為皇后獻伊甚屯倉請蘭入之罪
因定伊甚屯倉今分為郡屬上總國と所見たり 和名抄 郡名小
上總國夷瀕伊志美と有り 其外 津島縣直ハ國造本紀
此氏人の事更に物に見當らず
よハ津島縣直檀原朝高魂尊五世孫建弥已巳命改為
直と有り此ハ天穂日命の裔あらず又高魂尊五世孫
と云時ハ檀原朝よも當り可けれども改為直と云
ふと甚し心得難き事共ふれば已に其傳を亡へるよ
や神名式よ對馬島上縣郡小枝宿祢命神社見えしり
彼記よ天菩比命之子建比良鳥命と有り神名よ女
由有げふれとも猶定の難き事あふ 又姓氏録攝津 國神別天神よ

津島朝臣大中臣朝臣同祖津速魂尊三世孫天兒屋根
命之後也又未定雜姓撰津國よ津島直天兒屋根命十
一世孫雷大臣命之後者不見ふども 遠江國造ハ國造
有て天穂日命の流あハ所見ず
本紀よも出たれども此天穂日命の御末よ非ず遠淡
海國造志賀高穴穂朝以物部連祖伊香色雄命兒印岐
美命定賜國造と有り更に據と為べき事あひ無りけ
ると強て此と索よ神名式よ遠江國城飼郡比奈多
乃神社見えしり彼記の建比良鳥命と崇神天皇六十
年御紀よ武日照命 一云武夷鳥 又云天夷鳥 と所見たり日照又夷
鳥よ同じよ意を得て思ふ其社土方郷日向谷と
云地よ在て謂ゆる高天神と云山の麓よ御在し坐す
タカテン

△又天孫智郡津
毛利神社風土記
津氣里神社並
四十八東天武天皇
二年癸酉八月所祭
鏡速日命也
命を誤れり出
雲臣譜云天孫日
命子天夷鳥命子
伊佐我命子津夜
命と有也此神名
と同一を思ふ
可一又和名郡
名引佐伊奈と有
出雲國の相佐名
相通へる事傳可
又或説小國造本
紀小國造國造
檀原朝御世始定
天下時從侍來人
名美志印命是
賜國造と有八遠江
國佐野郡小國造
村有り此地古八
て素賀國と云
けむら出雲國大
原郡須我の地也

と云ふが其土方ハ和名抄御名ニ城飼郡土形比知加多
と有る是より謂ゆる此神孫ある土師氏在て土以て
物の形を製り出たよ依れり御名ふどもや有け
む然れば一國を惣たるとハ非れども其地に住げり
御奴ふるを以て遠江國造と稱たり一もや又同式
よ長上郡邑勢神社今大瀬村と云ふ御在し坐すと云
も天孫降臨章を謂ゆる天穗日命の御子大背飯三
熊之大人亦名武三熊之大人の御名も通へるふと
如何も故由有る事ハ所見たり但遠江と書くハ
事記の文格も非れバ近江の方々とも思ゆれども其
も近淡海と書く例ふれ然れども非りけり備其近江

△島津八古事記
謂ゆる島之速賀
と有る島是あり
万葉七行伊勢
海之白水即之島津
我觀玉取而後毛
可恋之將繁と
云レバ當昔島津
と云へて島の多
く有る國の謂ゆる
姓氏録和名雜姓
島首正我吾勝
速日天忍穗耳命
之後也と有八天穗
日命と御兄公身の
間より傳の混ハ
たると有可き由或
者の云ふハ然らば
多し持統天皇六
年御紀云々
國造と有の事
外ハ見えず續紀
川三小島津朝臣
小松中七小島津連
直道と有り
備此系記ハ

國も此天穗日命の御未ありし人の國造とも云状
よて有つらむと思ゆる故由有り其ハ傳十五卷二
而四十七丁に註るが如く蒲生郡馬見國神社二座ハ
天穗日命天夷鳥命の御在し坐する神武天皇御代
よ出雲國より彦健忍椎心命供奉りて蒲生直祖於保
加夜都比古命と共に祀奉りて其子孫ありし人即
出雲宿禰より其地に住へり其祖神を
齋に仕奉りて其地に住へり然れども此を以て近
江國造とも亦定め難し○又此天穗日命の神裔の國
事右よ己よ云ふが如し○又此天穗日命の神裔の國
造本紀よ所見たるハ島津國造志賀高穴穗朝出雲臣
祖佐比祢足尼孫出雲笠夜命定賜國造と有る其佐比
祢足尼ハ其祖より推すハ有べく也○又相武國造の
名帳考證よ出雲國出雲郡都我利神社伊佐波神社按
續乃日命ハ相武國造武藏國造等の祖なり其兄天守郡比命子諸子
出雲良譜武夷鳥命其子伊佐我命其子津夜命按當作
命子忍比古命子我乃里命子佐比尼足尼子塩子命子夜夜命と有り

○日本書紀傳二十二

○三百四十九

狩其子櫛旣前命也都我利神社津狩命狹鎮座傳記曰
櫛玉命亦曰旣前疑旣前旣尻足弟(而)津狩命子次帳曰
都我利神社次載伊佐波神社者亦似伊佐波為都我利
神子凡伊勢志摩出雲皆有祀伊佐波神共出雲神之子
而為伊勢之地主避國於神武天皇其裔為武藏相模志
摩国造也此神之事跡略可見之云是津狩命と櫛旣
前命と父子の系の續く所以あり若て其旣前と旣尻
と同神よりて其謂ゆる櫛玉命ハ世記に 出雲神子出
雲建子命一名伊勢都彦神一名櫛玉命と有る神よし
て神名式に志摩国答志郡伊佐射波神社二座並と有

る是より考證に按大神宮式與儀神名帳不同如此二
座伊佐波止美命玉柱屋姫命也云し伊佐波止美命若
伊勢津彦命而其先出自天穗日命也以伊勢志摩兩國
地主神之故殊尊之列乎別宮次と云し但大神宮式に
伊雜宮一座 大神遙宮在志摩国答志
即志太神宮南八十三里 有て此ハ一座
よて全く皇太神の遙宮ある事儀式帳の趣も然有ふ
れバ神名帳に二座と有ハ共同宮の御事ハ有れど
も其前社の神のこ出て其遙宮の一座ハ大神宮式に
譲りて省られたる者ありと所見たり 然らずハ儀式
帳及太神宮式
共ニ宮号を奉られたる別宮と申奉る 中より殊ニ太
神遙宮と云ハ書し奉れり許の重き御宮ニ渡りせ

△又其魂屍命の事
ハ上三百四十四入間
高祿の下より考
合可

給へると神名式は限りて此御宮を
社号は改る可き由無ればあり△
ハ其出雲國の伊佐波神社の例より推す右の説の
如く其主神伊佐波止美命より後祀玉柱屋姫命
御在し坐すめり但世記は伊雜宮一座
天牟羅雲命裔
天日別命子玉
柱屋姫命是と見え傳記は伊雜宮一座
皇太神遙宮也
天日別命兒玉
也形鏡坐と有る一座ハ皇太神の遙宮の御事
柱屋姫命也依と有る一座ハ皇太神の遙宮の御事
神託崇祭之
して右の二神の謂は非ず右の神名式は栗島坐伊
射波神社ニ座大並と有る本よりの鎮座ありつゝむを
倭姫命の御時ハ其社地を直は皇太神の遙宮ハ奉り
たりとあり神宮ハ伊雜宮を以祀しれ神名式ハ

其二神の御事のとを二座ハ擧ぐれたりし者あり備
考證ハ其傳記の文を引て按摭此文則似元祠伊佐波
登美神後後祀玉柱屋姫神と云るも然る事おぐり右
よ云る如き事共と考漏されたり者おぐり又伊勢風
土記ハ伊勢國者天御中主尊之十二世孫天日別命之
所平治天日別命神倭磐余彦天皇自彼西宮征此東州
之時隨天皇到紀伊國熊野村略中迺詔天日別命曰國有
天津之方宜平其國即賜標劍天日別命奉勅東入數百
里其邑有神名伊勢津彦天日別命尚曰汝國獻於天孫
哉答曰略中天日別命發兵欲戮其神乎時畏伏啓曰吾國

悉獻於天孫略中遂乘浪而而東焉云云伊勢津彦神天
別命懷柔此國復命天皇略下有を引て按神名帳信濃
國水内郡伊豆毛神社伊勢津彦神住信濃者是依抑神
代昔大已貴命長隱馬高皇產靈尊以女三穗津姫命為
妻據是則伊雜宮二座伊佐波止美命配玉柱屋姫命者
似於避國之時天別命以女玉柱屋姫命為妻乎云云
ハ事の状は於て實は正は然も有ぬ可き事あり
又神名式は伊勢國多氣郡伊佐和神社有り但伊雜
ハ伊佐波止名ハ假名違ハ此ハ別の事あり可
又和名抄御名ハ但馬國養父郡
石朱伊佐波と有り其創あり又國造本紀ハ相武國
造志賀高穴穗朝武刺國造祖神伊勢都彥命三世孫并

武彥命定賜國造と有を舉て考證り相武者相摸也武
刺者武藏也日本紀曰天穗日命此出雲臣武藏國造土
師連等遠祖也成務天皇御紀五年九月令諸國以國郡
立造長自神武天皇至此七百九十五年歷十三帝疑三
世孫上脱十之字と云り然も言あり然ハ大私部直
并海上國造等の系譜ハ依ハ出雲健子命亦名伊勢津彦命其
丁ニ註ハ死邪志國造志賀高穴穗朝世出雲臣祖名ニ
子神夜命亦名諸忍彦命其子五十根足命其子天比羅維命其
并之宇迦諸忍之神狹命十世孫云々と云事の有は合
子天速津古命其子二人有ハ兄天字那比命ハ島津國造の祖云
せて思ふハ實ハ然り又其宇迦諸忍ハ宇迦著怒の謀
リ其弟天彥彥乃日命此ハ右三上ハ引ル姓白録入開宿禰條云
事其所以註ハ如し此ハ崇神天皇六十年御紀
天穗日命七十七世孫天日古曾乃己呂命と有るナリ云ハ衍ハて七世孫
ハ就テ攷ルハ出雲臣之遠祖出雲振根と有り次ハ

其子武甕槌命其子古玉杵命其子健甕槌命其子比命其
 以神寶付其美韓日狹與子鸕瀨野而貢上然其
 子思立化多比命其子健佐都彦命其子二人有子兄を兄多
 鸕瀨野八国造本紀は出雲国造瑞籬朝以天徳日命十
 毛比命と云ふ此ハ百七ノ謂ゆる武蔵國造の祖あり弟を
 十世孫宇迦都久怒定賜国造と有を姓氏録に依り十
 弟武彦命と云ふ即相武國造の祖あり續紀に神護景雲
 二世孫あり其世數の如きハ已に傳十五ノ六に註
 二年二月成實從五位下勳六等淡部伊波賜姓相模宿禰為
 世に此ハ舉る及ハすと雖も右の如く相武國造
 相模國造と有る是なり
 武蔵國造と同祖ある趣あるを以見れば伊勢都彦
 命も出雲建子命とも申す程の事ありければ出雲よ
 り伊勢よ出て其地を主領けりと雖も天日別命の國
 を避て東國よ入給ひ其より猶本國の出雲よ還住ハ
 れ一が即鸕瀨野命の祖ありして此より支別れり

〇して右の淡部
 直ハ天孫本紀ハ
 出雲醜大臣命
 子三見宿禰命
 淡部連等祖と
 有る此ハ別
 少用明天皇二年
 御紀ハ物部八坂
 大市造ハ坂淡
 部造兄と見え
 天武天皇元年
 御紀ハ淡部友
 背と有り又續
 紀ハ出れる淡部
 造とハ物部の
 子して此直姓
 子トハ別あり

一者とあひ所思えたりけり
 然乎と出雲臣議ハ上
 傳へて伊勢都彦命ハ別神の如く思ふ者ふる可
 已に傳十五卷二百九十三丁に云るが如く古事記天
 御饗段に謂ゆる水戸神之孫櫛八玉神と有り此神
 子所由と尋ね知りハ其然の所由灼然く知れり
 但伊勢都彦命ハ天徳日命より四世孫あり然れば
 右の弟武彦命を三世よてハ編まり十三世よてハ延
 びし猶能正備其島津國造の始あり出雲笠夜命の
 す可き事あり
 組成務天皇御世の人あり其祖出雲巨祖佐比祢足尼
 ハ凡崇神天皇の御世頃の人と見て攷あるに傳十五
 二百六丁より粗云るが如く右の佐比祢足尼ハ若くハ
 十三丁
 彼甘美韓日狹の事ハ非より姓氏録ある土師宿禰
 允河内忌寸條ハ可美乾飯根命と有る飯根よて佐

例の真サふめり此人即野見宿禰命の父あが其の由有
る事ハ雄略天皇十七年御紀ハ詔土師連等使進下應盛
朝夕御膳清器者於是土師連祖吾等仍進云伊勢国藤
形村及云私民部名曰贄土師部と所見たれば其可
美乾飯根命の子孫當国ハ已くより住へるありけり
又通證ハ倭姫命世記曰安濃藤方片楯宮今属一志郡
土人言向掘出古陶器於田野と云ひ又神名式ハ安濃
郡加良比乃神社今藤方村ハ御在坐すハ土器を作
る事ハ其子孫ハ至りての事ハ有れども已ハ其地
を賜りて住事ハ其瑞籬朝の事ありけり故其可

美乾飯根命の子ハ野見宿禰命あり其出雲笠夜命と
孫と云れば若くハ其父ハ野見宿禰命ありて笠夜と云
も其朝夕の御膳ハ奉り清器を製し謂あるまこと有
けり其ハ物ハ所見されども畿内より我が本生国
へ係て瓦器の四類を遍く加佐と云事あれば古言ふ
るもてアヤ焼ミふどの義ハ非トクと所思ゆるを以て
上三十四
十五下神名式ハ多氣郡加須夜神社御在坐を考證
よ加須夜笠屋相通出雲笠屋命歟と云ハ然り有ぬ
可事あり然れば出雲建子神亦名伊勢部彦命ハ出
雲臣の祖として其子孫の甘美韓ハ狹命ハ鳥津国造

△出雲国巨津天
穗日命七世孫攝
田命之入有和
名枚即攝田久之多
多氣即攝田久之多
有之此由有て
所思ゆ但係祖余
世記之係祖余之
御攝落給其其
定賜支と有て時
世遠ハレハ猶別子
る也後人考可

ハ出で鷺瀨(澤)野命よりハ相武国造武蔵国造の氏
出て其より處々蕃息ハレる者とあむ所見たりけ
此島津国造相武国造の事を如此く合せ説たるハ
其起り伊勢部考命の起れを以てあり此相武
国造の所以をいふべけれども此の事
ハ上より説下されば明らめ難けむ神名式ハ相
摸国大住郡比比多神社見えたり和名枚郷名ハ田
と有を今ハ日向と書て比奈多と訓ハ就て考ふるハ
上三十四ハ註ハガ如く遠江国城飼郡比奈多乃神社
ハ其国造の祖武天日照命を祀れる社あるハ已ハ古事
記より天菩比命之子建比良鳥命此天邪志国造等之
祖也と所見たるハ右ハ奉たハ国造本紀ハ相武国造

武蔵国造同祖ある由ハ云ハと神名式ハ出雲国秋鹿
郡ハ田神社有リ風土記ハ比多社と作り然レバ此
の比比の一字ハ行れるもて實ハ比多と有て比奈
多と訓ふるもむも知べくも然ハ時ハ此ハ天夷鳥
命を祀れるありけり社傳ハ崇神天皇の御代當社ハ
勅願有て出雲の日向前紀伊の日向當国の田神社ハ
石古里止女命鏡を鑄作る形を此所ハ埋むと云ハ採
と云ハ社司説より神体ハ古き瓶ニ有リと云ハ共ハ
土物ハミモノの事ハ一ハ土師氏ハ由有る事共ハあむ有ける
但右の石凝姥命の事ハ信難ハ事あるガ此ハ崇神天

△同書は駿河國伊豆
原郡酒瓶神社
所祭大酒解小酒
解命也と有る
思合す可き者
ありし

皇御代は天社國社に幣帛を奉るれし時御事の有
と彼天璽の鏡を改められたる事を引附て云ふ
よて実には鏡の鑄とも云ふべき状にたる物の土中
埋りれ存れを云ふ可し彼遠江國の比奈多神社
土形御の御在り坐とも思合す可くあは借又摠國風
土記は比多神社天萬豊の天皇乙巳十月所祭大
酒解神小酒解神也神貢三十束と有る古くより土師
氏の作れり瓶の二有と神体として後より大山祇命木
華開耶姫命を合せ祀られたる者ある可し三宮と申
す事東鏡より出たり當國第二宮の謂はる有れども

祀神天夷鳥命後祀大酒解神小酒解神三神を合せ祀
れり事より相叶ひたりけるもや 其三宮舊記と云物
多神社三宮豊國主尊亦号豊國野尊並天明玉尊亦号
櫛明玉尊亦御名者号玉屋余並推の女尊亦号推の姫
尊是三大神宮中古冠大明神奉祭祀云成崇神天皇
成勅願己丑六年作御鏡宝鏡号神戶鏡是依奉納是所
神所神戶令祭並金仁天皇御宇猿田彦之子孫大田命
奏於皇帝嚴慮叶勅許不滞神社令造興云與磯上神
宮同奉納神戶宝鏡賜於莊園賞之号狹名田云と云
るハ後人の杜撰と見ゆ其ハ東鏡は三宮冠大明神と
有る思寄たる事と聞えて此主神を豊國主尊と云
ハ御紀は國常立尊國狹越尊對淳尊と有る第三神
に當れるを以て三宮の附會したるあり天明玉尊命
稚の女尊を祀る所以詳あらず又推の姫尊と云ふ亦
名何れの古書より有る崇神天皇乙巳六年云ハ
ハ御紀は天照太神を倭笠縫作ら祭事給へる事を
引出たるあり此時は鏡を鏡作ら祭事給へる事を
所見たれども神度鏡は非ず又無仁天皇御世の大

大鹿國直和名
抄名武藏國秩
此郡日者有
國此各ありと
人云り今小鹿町
と云ふ是なり

田命の事ハ神宮の偽書共す取たふり又與磯上
神宮同奉納神戶室劔と云ふハ凡て據無き事共めて
何れも云ふも足○右に註せる外ハ天穗日命の裔
ぬ強説ありあり
ハ國造本紀ハ菊麻國造志賀高穴穗朝却代死邪志
國造祖兄多毛比命紀大鹿國直定賜國造と見ゆ和名
枚御名ハ上總國市原郡菊麻久萬と有る是あり
本ハ菊を葉と誤れを今ハ改めて引るあり此ハ僅
ハ一郡ハ足らずして唯一郷の名ハ有れども古ハ
ハ方境甚廣阿波國造志賀高穴穗朝却世天穗日命ハ
世孫弥都侶岐命孫大伴直大瀧定賜國造と有れども
延佳神主の頭書ハ穗日可作押日乎と有ハ然る言ハ
り姓氏録左京神別ハ大伴宿禰高皇產靈命五世孫天
中天神

鎮所並後外從五位
下又神護皇孫三直
土月小陸奧國牧鹿
郡伴内外初位
上勳七等大伴部
初人言傳聞人等
本是紀伊國名草
郡片岡里人也昔
先祖大伴部直征
夷之時至根當郡
島田村而居と云
見入可也卷下武
藏國入間郡人大
伴部直赤男又并
六下總國印旛郡
大領大伴直牛卷
本と見入其安房
國造ハ武藏國造
同族あり日本後
紀小弘仁二年九月
出羽國入元邪志
直勝大伴部廣
勝賜姓大伴直と
見入皇孫國記中
大伴直赤男武藏
國多磨郡大領也
と有る是なり

鎮所並後外從五位
下又神護皇孫三直
土月小陸奧國牧鹿
郡伴内外初位
上勳七等大伴部
初人言傳聞人等
本是紀伊國名草
郡片岡里人也昔
先祖大伴部直征
夷之時至根當郡
島田村而居と云
見入可也卷下武
藏國入間郡人大
伴部直赤男又并
六下總國印旛郡
大領大伴直牛卷
本と見入其安房
國造ハ武藏國造
同族あり日本後
紀小弘仁二年九月
出羽國入元邪志
直勝大伴部廣
勝賜姓大伴直と
見入皇孫國記中
大伴直赤男武藏
國多磨郡大領也
と有る是なり

押日命之後也略ハ有り景行天皇四十年御紀ハ天皇
即命吉備武彦大伴武日連令從日本武尊云ハ以鞞部
賜大伴連之遠祖武日也ハ所見たるを以思ふハ右の
大伴連大伴直ハ本ハ別名ハ無クハ大伴直大瀧とハ別名事ハ成化ハ有
弥都侶岐命ハ其武日連の子ハ當ハ可ハ其五十三章
御紀ハ天皇の至上總國從海路渡淡水門と有る下ハ
於是膳臣遠祖磐鹿六鴈以蒲為手繩白蛤為膾而進之
故美六鴈且之功而賜膳大伴部と有ハ膳臣の伴部ハ
て右の大伴連の謂ハ非ト仁明天皇御紀ハ美和三年
年十二月辛丑安房國言安房郡人伴直家主云ハ有
同十一年五月西甲斐國言山梨郡人伴直湯成女と有る此ハ元ハ
ハ其武日連の末子と云ふハ神名式ハ朝夷郡天神社
大伴直云ハ神和天皇の御諱大伴と云ハ成化ハ有

其命と云人名と此と脱せる者ありけり其常陸
風土記に多珂郡東南並大海西北陸奥常陸二国堺之高山 古老曰斯我高
穴穗宮大八洲照臨天皇之世以建御狭日命任多珂国
造茲人初至歷驗地體以為峰險岳崇因名多珂之國謂
御狹日命者即出雲臣同屬今多珂石 建御狭日命當所
城所謂是也風俗說曰薦枕多珂之國 遺時以久慈堺之助河為道前去郡西北六十里陸奥国
石城郡苦麻之村為道後其後至難波長柄豐前大官臨
軒天皇之世癸丑年多珂国造石城直美夜部石城評造
部志許赤等請申惣領高向大夫以所部遠隔往来不便
分置多珂石城二郡 石城郡今存と見えたる此建御狭
陸奥国堺内

日命を出雲臣屬と云々ハ阿波国造ハ實ニ天穗
日命の遠裔ある證此ニ在る此を以て見る時ハ其
高国造ハ後ニ姓を石城直と云て下十百丁よなる天
津彦根命の流ある石城国造トハ系別ある者ありけ
續紀天平神護元年正月小多可連淨日と云有ハ此氏人ありけり
又上三十五丁よ註が如く伊勢都考命の亦名伊佐
波止美命し申すよ就て思合するふ神名式ニ多珂
郡佐波波地祇神社見えたるを清和天皇実録ニ貞觀
元年四月廿六日授常陸国 佐波神後五位下ト有
る佐波波又ハ佐波共ニ彼志摩国の伊射波神社の類
よて其建御狭日命の祖神を祀れるふとよころ有け

△但馬國二方國泉記
 上古大貴女彦名二
 神入田道前洲開瀨
 門經營此洲又至方
 國此區湯後君訓
 來即赤洲宮終向東
 方三河國と有之見
 るは二方共二神
 由れ地名よて
 有けり

△伯耆國造高賀
 高穴穗朝御世年
 邪志國造同祖兄
 多毛比命兒大八
 木尼龜兒定賜
 國造と有之天武
 天皇壬午御紀小
 冬十月己未伯耆
 造賜姓曰運と
 有之又大島國
 造志賀高穴穗
 朝先邪志國造
 同祖兄多毛比命
 兒兒傳有命定
 賜國造と有ハ
 用防國大八島
 郡是あり又

め但共同録は貞觀十七年十二月廿七日授常陸國三
 枝神後四位下と有之常陸國誌に引るは三枝祇
 神後五位下と作り此に就て或説は按三枝祭即率川
 祭也大和國率川阿波社同神と云るは如何有之佐波
 と阿波と言同くす又二方國造志賀高穴穗朝御
 猶能尋ぬ可事共あり
 世出雲國造同祖遷猶一奴命孫美尼布命定賜國造と
 有り和名枚郡名は但馬國二方布太加太御名は二方
 郡二方布多加多と有之是より右の遷猶一奴命と
 云名如何ともし訓べく強て思ふは遷猶一速猶
 都久奴命を草体より誤る字の二字を遷の字に都久を猶一誤れり云ハ實然
 と誤れるあり一奴ハ一主の義と聞ゆれば乘馬の事
 可き事あり
 名高ひ謂ある可し美尼布命ハ神名式は同郡面沼
 神社有り此を祀れるところ若て又因幡國八上郡賣

沼神社有り此に就て其所由と求む其高草即天穗日命神社
 天日名鳥命神社阿太賀都健脚熊命神社大野見宿禰
 命神社御在坐せバ右の美尼布遷猶一奴命ハ出れり
 ハ彼國あるところ又其八上郡ハ土師郡大江郡有之
 の但馬國統風土記ハ面沼神社在溫泉郷竹田所祭ニ
 方國造美尼布命也稱米持大明神と見えたり又神名
 式ハ二方神社見ゆ此ハ右ハ云所由と又豐國造志
 賀高穴穗朝御代伊甚國造同祖宇那足尼定賜國造と
 有り上三四引る同紀ハ伊甚國造志賀高穴穗朝
 御世安房國造祖伊許保止命孫伊已止直定賜國造と
 有り其安房國造ハ志賀高穴穗朝御世天穗日命八世

△後國造本紀
証と云物の出来ると
見九八景行天皇十
二年御紀に見え九
子と云人は是なりと
云り然る時ハ手字
を脱せり可し
此人の事豊後風
土記ハ昔者經高
日代宮御宇大足跡
天皇詔豊後國造
相菟名手道治
國徑到豊前國
仲津郡中臣村于時
日晚偏宿跡使忽
有白鳥從北飛來
翔集此村菟名手
即勸僕看遺者
其鳥化爲片
特之間更化草
草數千許詠
花葉冬榮菟
名手親爲異歡
喜云化生之草
未曾有見之實
至德之感乾
坤之瑞既而奏
上朝延奉於奏

國天皇茂茂歡喜之有即勸菟名手云天之瑞地之豐草決治國可謂豐國重賜姓曰豐國直と有り

國造と有ハ伊
其國造とハ出
自別名ハ伊
本國前臣と有
ハ豊國臣と誤
ハ由ハ流記十三
十九下ハ豊前國
仲津郡擬大領
鎮無位藤原東人
後記ハ十八十七
上豊後國大分
郡擬大領藤
伴公家吉吉とハ
云人具元存ハ
同記ハ弘仁三年
九月出羽國无
邪志直藤原大伴
奇ハ藤原勝賜姓
大伴直と云云
有ハ武藏伊國
同祖と云ハ証
と爲ハハ云

孫弥都侶岐命云と有ハ伊許保止命弥都侶岐命
ハ同人^{胞の}ある可し又此^{伊其國造}ハ同祖と云るハ宇那宿祢と云
ハ其伊許保止命の子^{阿知布命其子二人有リ伊也侶止直ハ伊其國}
^{造の祖と云弟あり}下海上の宇那と同一言と聞ゆれば其地ハ由れハ人
名ありと聞ゆ和名菟御名ハ豊後國ハ高郡伊美又國
崎郡伊美と二所ハ出たハ伊美ハ元ハ伊自美と書
たりけむを削の二字ハ約められたるより右の如く
書て訓ハ猶古き任ハ伊自美と訓ハ事あるハ也此
り外ハ豊前豊後二國共ハ更ハ考ふ可ハ便宜有ハ事
無く多ハ有け
又大方即武藏御有リ古事記ハ天菩
比命之子建比良鳥命此出雲國造无

邪志國造云ハ伊自年國造云ハ等之祖也と有ふト何
れハ一ても由有げある事共あり和名菟即名ハ上總
國夷瀛伊志美と有リ是即○又天穗日命の神裔の氏
伊自美と云ハ証あり
二傳十五 二百五十七丁ハ奉たハ出雲臣^神土師連の
外ハ神門臣石津連入向宿祢山直民直^{菟我}賀真髮部等
の氏有リ其ハ神門臣ハ姓氏錄^{右京神別}ハ神門臣天
穗日命十二世孫鵜瀨命之後也と有リ出雲風土記
ハ所以號神門者神門臣伊賀曾熊之時神門真之故云
神門即神門臣等自古至今常居此處故云神門と有リ
此神門ハ其同族ある出雲臣と諸共ハ仕奉ハ熊野杵
^{在奉の中ハ出雲臣ハ熊野大社ハ近ク神門臣ハ杵築大社ハ親ハ其大社}
築兩神宮の御門を造奉れハ可し其下ある吉栗

△但下ノ神門即餘
戸里大門立村と云
山村各見えなれバ
此即内ノ大神ノ御
門を建たれし状
よし見ゆめり

山部家西南廿八里と有る其細書に有^{杉築神宮}拖扮也所謂所
造天下大神宮材造山也と所見たるハ此山材を以て
(御)仕奉るると其伊賀曾熊が私物を輸して仕奉れる事
の由に依て神門と云地名ハ起れるありけり△又宇比
多伎山即家東南五里五十六歩と有る下ノ大神之御
屋也と有ハ殊に其中重なる正殿を仕奉る山あり
謂ふ可く又稲積山即家東南五里七十六歩と有る
下ノ大神之稲積也と書一又稲山即家正東五里一而
一十六歩と有る下ノ東有樹林三方並磯也大神之御
稲と云ハ共ニ御稲倉の料材を採れる山なり又ハ其

稲倉の此に在つるあり可し其稲積の事ハ傳十四
一ノ之り次ニ陰山即家東南五里八十六歩大神之御陰也
有る陰を富登と訓ハ誤あり加宣と訓べし祝詞ニ天
之御蔭日之御蔭止隱坐氏と有ハ屋を覆ふ事と云ふ
れバ大社の御屋を高く草を此山に採れる由あるに
と云次ニ梓山即家東南五里二百五十六歩南西並有樹林東北
並磯也大神又冠山即家東南五里二百五十六歩大神
神之御梓大神冠と有る梓山ハ梓木を此に伐り冠山ハ日影を此に
採て貢れる山と云ゆり神賀詞ニ伊都幣能緒結天乃
美賀秘冠ミカゲトコノリと有ガ如く上世に冠と云ハ御影曼ある

可事傳十百八十九三百九十七丁註るが如く右等の
物共と此郡より杵築大社に貢上る事ハ出雲國造出
雲臣より支別れたる神門臣の其郡に在て仕奉り来
る者ハ所見たり其神門郡の終ある連署の中ハ大領
外後七位上勲業神門臣と見え又大同類聚方ハ須西
利藥出雲國神門郡後八位上神門臣等之家傳方其元
若和加須西利比賣命所授也備出雲國
郡能野坐神社出雲郡杵築大社二所御在一坐す共
ハ天徳の命の神孫たる出雲國造の持齋ハ皇神等な
り然るハ神祇令天神地祇の義解ハ調天神者云々出
雲國造齋神等類是也地祇者云々出雲大汝神等類是
也云々杵築大社と國造齋神と云々故有る事
あり其ハ風土記の終ハ其勲造の事を書せば所ハ國

△土師前祿秋祿朝
巨同祖天徳の命十
四世孫野見前祿之
後也又土師連同上
と有と和名取郎名
大鳥郡土師波之
と有り此ハ已傳
十五福六云々事
あがり次あり石津
連の事ハ由有
り云々次

△仁明天皇神紀ハ義和成癸卯十一月己卯朔庚辰左京石津連天徳の命十四世
左大史正六位上山直池作等ハ及道子賜楯於池名
作之先出雲天徳孫野見前祿也見云々

造帶意字郡大領外正六位上勲業出雲臣廣島と有と
以見るハ其熊野大社の御在坐す御許近く住へる
然る古ハ殊ハ親しく仕奉りて其より杵築大社ハ
若て其杵築大社ハ神門臣共神門郡に在て仕奉れる
故ハ出雲大汝神と國造齋神と云々あり今の
狀ハ古異ホ又同録和泉國神ハ山直天徳の命十七
世孫日古曾乃己呂命之後也と有ハ上三百四十四丁引る
左京神別の入向宿祿天徳の命十七世孫天日古曾乃
己呂命之後也と有ハ合り同和名取郎名ハ和泉郡山直
也未多倍と見ゆ神名式ハ同郡山直神社御在坐す

可事傳十^{百八十}十九^{三百九}註^{十七丁}が如^一右等の
 物共と此郡より杵築大社に貢上る事ハ出雲国造出
 雲臣より支別れた。神門臣の其郡に在て仕奉り来
 る者と所見たり其神門郡の終ある連署の中は大領
 外後七位上勲業神門臣と見え又大同類聚方に須西
 利藥出雲国神門郡後八位上神門臣等之家傳方其元
 者加須西利比賣命所授也と見え^{備出雲国}
 即能野^坐神^社出雲郡杵築大社に二所御在^一坐す共
 り然^天徳^日命^の神^孫た^る出雲国造の持齋^皇神^等な
 雲国造齋神等類是也地祇者^云出雲大汝神等類是
 也^云て杵築大社と国造齋神と^云ざる^ハ故有る事
 あり其ハ風土記の終に其勲造の事を書せば所^ハ国

△土師宿禰秋篠朝
 巨同祖天穗日命十
 四世孫野見宿禰之
 後也又土師連同上
 と有と和名板郷名
 大島郡土師波之
 と有^此ハ^巴傳
 十五^福六^云事
 あり^次あり^石津
 連の事^ハ由^有り
 引^こり^次引

造帶意字郡大領外正六位上勲業出雲臣廣島と有と
 以見^る其熊野大社の却在^一坐す御許^近く住^へる
 り^古ハ^殊親^の時^に仕^奉り^て其^杵築^大社^ハ
 然^る可^き神^事の^時に^仕奉^りて^其杵^築大^社に^ハ
 若^て其^杵築^大社^ハ神^門臣^共神^門郡^に在^て仕^奉れ^る
 が故^に出雲大汝神と国造齋神と^ハ云^{ざる}あり^今の
 状^ハ古^異也^又同^録和泉国神^ハ山直天穗日命十七
 世孫日古曾乃己呂命之後也と有^ハ上^{三四}引^る
 左京神別の入向宿禰天穗日命十七世孫天日古曾乃
 己呂命之後也と有^ハ合^り和^名板^郷名^ハ和泉郡山直
 也未多倍と見ゆ神名式も同郡山直神社御在^一坐す
 ハ其氏神も^こ有^らめ^次石津連天穗日命十四世
 孫野見宿禰之後也と有^り和^名板^郷名^ハ石津以之部

正
 大
 天
 皇
 御
 紀
 卷
 之
 三
 十
 三

仁徳天皇六年即紀章河内石津原以定陵地と所見を以て其土物に奉れり

△又和泉国未定雑姓の中より眞髮部天穗命之後者不見と云ふ有り

△又和泉国未定雑姓の中より眞髮部天穗命之後者不見と云ふ有り

統後紀年元興寺贈守部を聘し和泉國神俗住師

と有る是あり神名式の大鳥郡石津太社神社本國神名帳に石津(太)多社と作り若くハ天夷鳥命ハ御在

一坐さる今石津の夷社と云て名高きハ其神名の

民直同神十七世孫若桑足尼之後也と有ハ同郡美多

弥神社是あり可し此ハ供御の菅田ふとを預りて仕奉れり謂あるもや

其ハ出雲凡土記ハ美談郷郡家西

北九里二而四十歩所造天下大神

脚子和加布都努志命天地初判之後天脚領田之長供奉坐之即彼神御中坐故云三太三云ハ有ガ如ク今ハ賤人を民と云事と心得めれど古ハハ田耕ハ長なる人多美ト云けり多美ト云て田持の義あり

事傳十四卷百八十二又未定雑姓

丁云云ガ如クあり又山城國奄我天穗命後者

と有る奄我を今本惠我に誤れり其ハ傳十五 二石六

と註るガ如ク丹波国天田郡奄我神社見えたるハ和名枚御名ハ同郡土師又奄我有り又同式ハ但馬国出石郡阿牟加神社見えしハ同枚御名ハ同郡埴野波

尔乃と有り阿牟加ハ齋筭と云事ハ供御の料の清器と云ある可し雄略天皇十七年脚紀ハ詔土師連等使進應盛朝夕御膳清器と有る中ハ丹波ハ但馬

有る是あり其阿牟加ト云人名ト吾筭ト云ハ人名ト相似たるヨリ赤心と著べき事共あり續紀ハ宝龜四年九月壬辰丹波国天田郡奄我社有盜喫供祭物斃社

仁徳天皇

仁徳天皇六年脚
紀の幸河内石津原
以定陵地と所見を
其土物は奉れり
を以て其地に住る者
ある可し彼在仁天皇
三年脚紀の野見前
祢の自領土部等取
埴以造作人馬及種々
之物形献于天皇曰
自今以後以是土物更
易生人樹於陵墓並
後葉之法則と有と思
合す可なり

と有る是あり神名式の大鳥郡石津太社神社本國神
名帳の石津(太)多社と作り若くハ天夷鳥命の御在
坐さる今石津の夷社と云て名高きハ其神名の
夷字を取て非ぬ神の社と為る者と所見たり其次の
民直同神十七世孫若桑足尼之後也と有ハ同郡美多
弥神社是あり可し此ハ供御の菅田ふとを預りて仕
奉れり謂あるもや 其ハ出雲凡土記ハ美談郡即家西
却子加加布都努志命天地初判之後天脚領田之長供
奉坐之即彼神御中坐故云三太三云と有が如く今
ハ賤人を民と云事と心得めれど古ハ田耕ハ長
る人多美と云けりし多美と云て田持の義あり
事傳十四卷百八十二 又未定雜姓 奄我天徳日命後者
下云云が如くあり又山城國 奄我天徳日命後者

と有る奄我を今本惠我の誤れり其ハ傳十五 二石六
十三丁
に註るが如く丹波國天田郡奄我神社見えたるハ和
名枚御名ハ同郡土師又奄我有り又同式ハ但馬國出
石郡阿牟加神社見えたるハ同枚御名ハ同郡埴野波
尔乃と有り阿牟加ハ齋筭と云事よて供御の料の清
器と云ある可し雄略天皇十七年脚紀ハ詔土師連等
使進應盛朝夕御膳清器と有る中ハ丹波ハ但馬
有る是あり其阿牟加と云人名と吾筭と云ハ人名と
相似たるも亦心を著べき事共あり續紀ハ宝龜四
年九月壬辰丹波國天田郡奄我社有盜喫供祭物斃社

中五十許丈更立社焉と有を以ても神威の可畏く御
在し坐す程ハ知るるあり但惠我と有し一説あり
紀ノ餅香市の名有り即河内国古市郡あり顯宗天皇十三年御
御紀室壽御詞ハ旨酒餅香市不_以並買と有る旨酒ハ
美酒あり餅香ハ陶瓦_{めて}須惠_且と云事ある可し右
の奄我の事ハ戻く可く_ずと雖も惠我と云も僻事
ハ非_可し○土師連瑞珠盟約章ハ出傳十五二百六云
り○天津彦根命傳十五二百七委_一く説註_一奉れ
り備古事記ハ次天津彦根命者凡川内国造額田郡
田中直山代国造馬来田国造道尻岐_并国造周防_同
造俊奄知造高市縣主蒲生稻寸三枝部連等之祖也
有て記傳七卷ハ明解有りと雖も今又此ハ右の御事
共と説へざるなり此ハ唯茨城国造額田部連等遠祖

との有り又例の合せ解べきあり次ハ此を云べ
一○茨城国造ハ古事記ハ天津日子根命者茨木国造
之祖也と所見たり但諸本共ハ木国造と有を記傳七
下_十ハ下_引ハ例證共を奉て茨字を補はれたるハ
實ハ然_言あり国造本紀ハ茨城国造輕島豊明朝御
世天津彦根命孫筑紫刀祢定賜国造と有り其筑紫刀
祢_と云人名ハ古語拾遺ハ天月一箇命と筑紫伊勢兩
国忌部祖也と所見たれ_ハ韓_征の御時おとみ供奉りて
其家の職と有_鍛治_治の事を以て仕奉れりし子孫の
筑紫ハ在を思へバ必其人ありけむとぞ所思えたり

而歸土窟盡繫茨蕪衝害刺傷終疾死故取茨蕪以著
縣名所謂茨城郡今存那珂郡之西古者郡家所或曰山
之佐伯野之佐伯自為賊長引率後衆橫行國中大有劫

殺時黑坂命規滅此賊以茨城造所以地名便謂茨城焉
茨城國造天津多初許呂命仁息長帶比賣天皇之朝當

至品太天皇之誕時多初許呂命有子八人中男筑波使
主茨城郡湯坐と有る此多初許呂命ハ神功皇后御紀

△方彙抄云引る風時記上黒坂命正對陸奥蝦夷多氣
旋及多受郡角枯之山黒坂命遇病身故受改南宮親
黒坂前山黒坂命之孫轉津系自黒坂之山到日高見之
國茨城具儀赤旗青幡交雜親賜雲飛虹張望野權
路時人謂之陸奥國後也陸奥國見たりと云は證と為る備姓氏

△常陸ふる茨城國
造の

△下三十七菅田
首の所よあるか如く
和名板々常陸國河
内即菅田郡有姓
氏録山城國神別
菅田首天久斯麻比
止都命之後也と有
思合す可き事
なり

たり和名板々郡名も常陸國茨城年波良岐と有る伊婆

良伎あゝと音便も年と云ふあり又姓氏録和泉國皇

考命之後也有別見たり備攝津國島上郡今も茨木村

と有る其同族たり一人の住地也此茨城國造即

天津彦根命の後よりて攝津國造と有る河内忌寸

の同族と有れば大なる由有る事あり傳十五卷二百七

十七下よあり右の天津多初許呂命ハ姓氏録も天津

彦根命十四世孫建許呂命と有る此人あり其有子八

人と有る中も其一第二子ハ師長國造志賀高穴穗朝御世

和泉国造
天津彦根命
和名抄
和泉国造
天津彦根命
和名抄

而歸土窟盡繫茨藤衝害刺傷終疾死故取茨藤以著
縣名所謂茨城郡今存那珂郡之西古者郡家所或曰山
之佐伯野之佐伯自為賊長引率後衆橫行國中大為劫
殺時黑坂命規滅此賊以茨城造所以地名便謂茨城焉
茨城国造天津多初許呂命任息長帶比賣天皇之朝當
至品太天皇之誕時多初許呂命有子八人中男筑波使
主茨城郡湯坐と有る此多初許呂命ハ神功皇后御紀
連等之初祖也と有る此多初許呂命ハ神功皇后御紀
時の人あり此と有る此多初許呂命ハ神功皇后御紀大臣族黑坂命と云るハ右右子ハ人
と有る中の一人もて此ハ茨藤紫刀祢と有る人ある
あり
や始九国造に任されたるを以て謬と為るハ諸姓氏
録未定難姓ハ茨木造天津彦根命之後者不見と見え
和泉国

△常陸の茨城国造の

△下三十七菅田首の所よるか如く和名抄に常陸国河内即菅田郡有姓氏録山城国神別菅田首天久斯麻比止都命之後也と有る思合す可ま事

たり和名抄郡名に常陸国茨城年波良岐と有る伊婆良伎ありと音便の年と云ふあり又姓氏録和泉国皇別ハ茨木造豊城入
彦根命有ハ其同族たり一人の住地ハ此茨城国造即天津彦根命の後よりて摂津国造と有る河内忌寸の同族と有れば大由有る事あり傳十五卷二百七十七下よる右の天津多初許呂命ハ姓氏録に天津彦根命十四世孫建許呂命と有る此人あり其有子八人と有る中第二子ハ師長国造志賀高穴穗朝御世あて和名抄郡名に餘綾郡磯長と見えたる此国造はる可第二子須惠国造志賀高穴穗朝茨城国造祖

△万葉九十七上詠上總
有梓乃末乃孫名者
口當郡額田湯坐二鄉
△有地國也考元八寺
△有地國也考元八寺
△有地國也考元八寺

造志賀高穴穗朝御世茨城国造祖建許呂命兒深河意
弥命定賜国造と有り同抄郡名も上總国望陀末宇太

口万葉十四林止徳歌宇多能存乃佐左葉能又宇
△屋上五尺八屋主乃社の葉能可許
△未割造中法隆寺多河之御二百一十烟名曰石城國
△有地國也考元八寺

賜国造と有り此と古事記も道尻岐閉国造と有て
道口と道尻との違有て何れも其と今定む可うござ

△備此と古事記も
馬來田國造と作天
△有地國也考元八寺

るよ似たりと雖も道口ハ常陸陸奥用多珂郡道口御有と之ハ大名を以て
云よめて次よ道前是あり可し道尻ハ常陸風土記
多珂郡條よ以久慈塚之助河為道前去郡西北六十里
陸奥国石城郡若麻之村為道後と有る是もて其下よ
至難波長柄豊前大宮臨軒天皇之世より分置多珂石
城二郡石城郡今存と見えたるが如く元ハ常陸国也
りしを其道前の方を多珂郡の方を屬て道後ハ陸奥
国と成れるが岐閉ハ城上りて磐城郡より奥方あり
可よと今ハ其名絶たるあり儲共常陸の多珂郡よ
り陸奥の磐城郡より直り地ありし故ハ一よハ道口と

▲備此と古事記より
 馬來田國造と作り天
 武天皇元年却紀より大
 伴連馬來田と云人名
 有る其十二年六月より
 大伴連望多と有り
 此を以て和名板と未
 宇太と有る宇麻具
 多と音便と云ふこと
 知し同板綱布類
 調布の下望陀者
 上總國郡名と有り
 其古訓ハ同ト云
 可事事云々更云

建許侶命兒大布の意弥命定賜國造と有る是あり和
 同抄郡名は周誰季と見えたり其弟三人ハ馬來田國
 造志賀高穴穗朝御世茨城國造祖建許呂命兒深河意
 弥命定賜國造と有り同抄郡名は上總國望陀末宇太
 と有る是あり其弟四人ハ道奧菊多國造輕島豐明御
 代以建許呂命兒屋主乃祢定賜國造と有り和同抄郡
 名は陸奥國菊多米久多と有る是あり其弟五人ハ道
 口岐閉國造輕島豐明却世建許呂命兒宇佐比乃祢定
 賜國造と有り此を古事記より道尻岐閉國造と有て
 道口と道尻との違有て何れも其と今定む可うござ

るよ似たりと雖も道口ハ常陸陸奥國多珂郡と云ふ是を
 云よめて次より道前可し道尻ハ常陸風土記
 多珂郡條より久慈塚之助河為道前去郡西北六十里
 陸奥國石城郡若麻之村為道後と有る是より其下は
 至難波長柄豊前大宮臨軒天皇之世より分置多珂石
 城二郡石城郡今存と見えたりが如く元ハ常陸國を
 りしを其道前の方を多珂郡の方を屬て道後ハ陸奥
 國と成れるが岐閉ハ城上りて磐城郡より奥方あり
 可きを今ハ其名絶たるあり儲共常陸の多珂郡よ
 り陸奥の磐城郡より地ありし故ハ一ハ道口と

云ひ一ハ道尻と云ハ傳の有一ありけり
 然レ故ヨ 常陸ヨリ
 係テハ道口岐岡と云ハ陸奥と本ト一テハ道尻岐岡
 △万葉仙見抄道後深津島山傳と道後ハ陸奥國ハ共ニ僻事と云ハ非
 東山道の竟チ本道後也又其常陸國ヨリ河内新津山志賀高穴穗朝御世以
 さい凡上記各ハ道後ヨリ那未の山と訓リテ陸奥國ハ東海道
 の竟チヨリ故ヨリ此ト云ハ心傳チ本ト陸奥國ハ東海道
 其道ヨリ道後と訓ルハ心傳チ本ト陸奥國ハ東海道
 〇考証多クテ幸テ陸奥國ハ東海道
 遺時以久恙之勅河内道前 陸奥石城
 郡若麻之村ハ道前 陸奥石城
 極ヨリ故上道後ト云ハ 陸奥石城
 後至難波長柄豐前本宮 陸奥石城
 城直美夜部石城 陸奥石城
 大吏以所部遠 陸奥石城
 勇河の地ヨリ割テ陸奥石城 陸奥石城
 奥上隸ルハ一故上若麻之村 陸奥石城
 村ト云有モ石城 陸奥石城

許呂命の始テ任され奉レる國あり事云り更あるが

右ヨ引る風土記ハ坂城國造初祖天津多祁許呂命仕
 息長帶比賣天皇之朝當至品太天皇之誕時多祁許呂
 國造本紀ハ筑波國造志賀高穴穗朝御孫河内國造
 命定賜國造ト有ハ其物部ノ伊香色雄命ノ後ノ末也ハ
 見テ可統紀ト神護景雲元年志賀國造陸奥石城
 下至生連小家主賜姓志賀村同二十六年六月以志賀國造陸
 國筑波末女臣五位正 勳五等至道宿禰志賀國造
 國造ト見之乃上其麻衣記ト筑波國造初祖天津多祁
 許呂命ヨリ云有子ハ 筑波國造志賀國造
 初祖也ト有モ打合ルト或記云三代天皇是録上仁和二年上
 月十六日己丑常陸國正長位上塔根神授是後下ト有テ
 杜ハ今新治郡上境村容見明神有テ是也右額上領
 加具茅の神ト云古額香丸健身録上塔根首天久新麻地
 止都原之屋也ト見之同族ト云志賀國造ト同
 族ト云志賀國造ト同族ト云志賀國造ト同族ト云
 造等之祖也ト云
 國造本紀ハ

筑紫刀祢の事ヨテ上
 筑紫刀祢トハ上ト云
 筑波使主トハ其任ヨ
 又此筑波使主ハ同
 爲筑波命トハ異ナリ

あり思混ふ可りず其弟八子公周防國造輕島豐明

云ひ一ハ道尻と云ハ傳の有リありけり然ル故ニ
係テハ道口岐岡と云ハ陸奥と本トシテハ道尻岐岡
と云ハありて然ル例有る事あり共ニ僻事と云ハ非
ずあり又其弟六子ハ石背国造志賀高穴穗朝御世以
建許侶命兒建弥依米命定賜国造と有ハ和名抄郡名
ハ陸奥国磐瀨伊波世国分爲伊達郡と有ハ是あり清
和天皇実録ハ貞觀五年 月 陸奥国磐瀨郡人吉
弥候部豊野賜姓陸奥磐瀨且天津彦根命之後也又六年七月上陸奥国磐瀨郡推大願磐瀨朝御長宗と有
テ能合リ其弟次ニ七子ハ石城国造志賀高穴穗朝御世以
建許呂命定賜国造と有リ此ハ其八子の父と有ハ建
許呂命の始テ任され奉れル国あり事云ハ更あるが

陸奥国磐瀨郡人吉
弥候部豊野賜姓陸奥磐瀨且天津彦根命之後也
又六年七月上陸奥国磐瀨郡推大願磐瀨朝御長宗

右ニ引ル風土記ハ茨城国造初祖天津多祁許呂命仕
息長帯比賣天皇之朝當至品太天皇之誕時多祁許呂
命有子八人中男筑波使主茨城郡湯坐連等之初祖也
と有と思ふハ筑波使主ハ元來筑紫乃祢の事にて上
三百六十五丁ニ謂ゆる茨城国造の始祖ある可ク少けれバ
是其弟七子ニ當リ可クあり但筑紫乃祢トハ上ニ云
ル如ク其本生の地を以テ號げ筑波使主トハ其任ニ
着タル地名を称れル者あり可シ又此筑波使主ハ同
記筑波郡條ニ謂ゆる采女臣女臣女筑波命トハ異あり
あり思混ふ可クあり其弟八子ハ周防国造輕島豊明

古事記ハ天津日子
根命者ハ周防国
造等之祖也ト有
国造本紀ハ

筑波郡條ニ謂ゆる采女臣女筑波命トハ異あり

〆る公三代美録朝皇親祖加米平鹿漢定賜國造と有る是あり
 (國)正五位上石城神武天皇孫建武天皇孫額田部皇孫額田部
 夫歸二神土坐立今所奉大山祇命也神武天皇孫建武天皇孫額田部皇孫額田部
 國磐城郡よ二侯神武天皇孫建武天皇孫額田部皇孫額田部
 坐るも思合す可し

草

と見ゆるふと證と為さる者あり 但此草八子の如き
 非ずと雖も國造本紀より出づる右の次序を以て一二
 ハ云ふ忍凝見命孫阿用色命定賜國造と有る別人
 御世以風土記に筑波郡東茨城郡南河内郡西毛野河
 了可一風土記に筑波郡東茨城郡南河内郡西毛野河
 北筑波古老曰筑波之縣古謂紀國美萬貴天皇之世
 遣采女巨女屬筑波命於紀國之造筑波命曰欲令身名
 者著國而後世流傳即改本號更稱筑波者風俗説曰握
 飯筑波之國と所見左此崇神天皇御世の事よて
 采女巨女姓録右京神別上天神み采女朝臣石上朝
 巨同祖神饒速日命六世孫大神水口宿禰之後也と見え
 和泉國神別天神み采女巨女神饒速日命六世孫伊香我
 色雄命之後也と有る此に就て思合せらる事ハ其

采女巨女屬と有る天孫本紀伊香色雄命の下よ山代
 縣主祖長清女真木姫為妻生二兒云々見えり此
 を以て考るよ瑞珠盟約章よ天津彦根命是凡川内忌
 (寸)直山代直等祖也と有る其裔の山代縣主ありけれ
 ば其忍凝見命ハ建許呂命の父ふと長溝と云人
 の兄弟ふとよハ有けむ右の筑波命と云ハ決めて
 其忍凝見命あり可く又其忍凝又建許呂ふとの
 疑ハ鍛冶の謂めて同風土記香島郡條よ郡東二三里
 高松濱云々慶雲元年同司采女朝臣ト率鍛冶佐備大
 麻呂等採若松濱之鐵以造劍之云々安曼湖之所出
 鐵造劍大利云々と有る佐備大麻呂ハ佐備ハ下章茅
 三一書よ謂ゆ蛇韓錫之劍又神武天皇御紀よ乃枝
 劍入海化為劍持神と有る劍是るれ右の佐備と云
 るハ刀劍と鍛冶す謂ふもて此も其建許呂命の未ふ
 る人ハ古事記よ天津日子根命の裔孫と書せる中
 額田部湯坐連と有る姓氏録 (大和國)左京よ額田部
 湯坐連天津彦根命子明立天脚影命之後也允恭天皇

天孫御坐
額田部
古事記
神代卷

尊

朝茨城国造同祖加米乃意美定賜国造と有る是あり
神名式よ周防国熊毛郡石城神社有とも思合す可く
又吉敷郡仁壁神社御在坐し額田部の切まれの者
と見ゆるふと證と為さる者あり但此芽八子の如き
み非ずと雖も国造本紀よ出たる右の次序を以て一二
ハ云ふ忍凝見命孫阿用色命定賜国造と有ハ別人
却世以風土記よ筑波郡東茨城郡南河内郡西毛野河
了可一風土記よ筑波郡東茨城郡南河内郡西毛野河
北筑波古老曰筑波之縣古謂紀國美萬貴天皇之世
遣采女臣女属筑波命於紀國之造筑波命曰欲令身名
者著國而後世流傳即改本號更称筑波者風俗説曰握
飯筑波之國と所見た此崇神天皇御世の事よ
采女臣姓録右京神別上天神み采女朝臣石上朝
且同祖神饒速日命六世孫大水口高祢之後也と見え
和泉国神別天神み采女臣神饒速日命六世孫伊香我
色雄命之後也と有る此に就て思合せらる事ハ其

采女且長清女有ハ天孫本紀伊香色雄命の下よ山代
縣主祖考の瑞珠盟約章よ天津彦根命是凡川内忌
を以て山代直等祖也と有る其裔の山代縣主ありけれ
付直山代直等祖也と有る其裔の山代縣主ありけれ
の兄弟不とよもや有けむ右の筑波命と云ハ決めて
其忍凝見命の可く又其忍凝又建許呂ふどの
疑ハ鍛冶の謂めて同風土記香島郡條よ郎東二三里
高松濱云々慶雲元年国司采女朝臣ト率鍛冶佐備大
麻呂等採若松濱之鐵以造劍之云ハ安曇湖之所有汝
鐵造劍大利云々蛇韓錫之劍又神武天皇御紀よ乃枝
三一書よ謂ゆ蛇韓錫之劍又神武天皇御紀よ乃枝
劍入海化為劍持神と有る此も其建許呂命の未ふ
るハ刀劍と鍛す謂ふもて此も其建許呂命の未ふ
る人よ古事記よ天津日子根命の裔孫と書せる中
額田部湯坐連と有る姓氏録(大和国)左京よ額田部
湯坐連天津彦根命子明立天脚影命之後也允恭天皇

御世被^遣造薩摩国平年人復葵之日獻御馬一疋額有町
 形迴毛天皇喜之賜額田部也又額田部同命孫意富伊
 我部命之後也と有り然れば天津彦根命の子天御蔭
 命亦名天目一箇^命として其孫ハ意富伊我部命坐^り
 若て又^{大和国神}額田部河田連(天同神三世孫意富伊
 別天孫)我部命之後也允恭天皇御世獻額田馬天皇勅此馬額
 如田町仍賜姓額田^部連と有り此意富伊我部命の意富
 ハ考^{を傳}の誤^りみてハ非る其高市連額田部同祖天津彦
 根命三世孫彦伊賀部命之後也と有と證と為べし然
 して此ハ其父の意富伊我部命對へて其子を彦伊

△有^り同録^三按部
 連查知連高市縣主
 の下は天津彦根命
 十四世孫建許呂命
 と有りハ後の人あり
 可^し事^も更^もあり

賀部命と云々所思一ければあり但^{和泉国神}末使主
 天津彦根命子彦稻勝命之後也と有。此ハ其三世孫
 あり人を^廣子と云ふめて其世數ハ合^らざる者あり
 又攝津^{同神}額田部湯坐連天津彦根命五世孫乎田部
 別天孫連之後也と見えたり然る^ハ常陸風土記茨城郡條^ハ
 多祁許呂命有子八人中男筑波使主茨城郡湯坐連等
 之初祖也と所見た。此筑波使主ハ上^{三而六}謂ゆ
 る国造本紀ハ茨城国造輕島豊明朝御世天津彦根命
 孫筑紫乃祢定賜国造と有。此人鎮西めて生れたる
 故ハ筑紫乃祢と云けるを其国ハ任^り著てより地名

を唱へて筑波使主と云けるあり其湯坐連ハ額田部
 湯坐連ある事云も更あるを其初祖と云を以て思へ
 ハ必右の額田部の氏（正百八十九丁）右の茨城国造より出たり
 一者ありけり又此外（正百八十九丁）右京神別上天神額田部
 又額田部應玉額田部宿禰同祖明神孫天村雲命之後也
 御支宿禰之後也又山城同神別天神額田部宿禰
 同名門命六世孫天由久富命之後也又攝津同神別天
 神額田部宿禰角凝魂命男五十狹經魂命之後也
 所見たる宿禰の姓ありハ此とハ別あり思ひ混ぶ可
 けり者若て其委（正百八十九丁）所由ハ次しハ註してむを考合す可
 馬一疋額有所形廻毛（天皇喜之賜額田部）獻額田馬天皇勅此馬額如
 田町仍賜姓額田部連とも所見はしたる廻毛ハ和名

枚（尔雅註）廻毛一云旋毛和名都無之と有る是（即右の）
 廻又ハ旋字の義の言あり然れば同枚（風文選詩）回（風文選詩）廻（風文選詩）卷高樹
 兼名苑云廻暴風後下而上也和名豆無之加せと有り
 同言もて圓筋（ツスガ）の切れあり（其又）其廻毛を俗に都自と
 云ひ廻と都自加せと略して云事あるが同枚道路類
 十字（ツレ）吳均行路難云縱横十字成阡陌（今按十字者東西南北相分）
 道其中央似十字也（有）和名を載ざれども世に遍く都
 俗用（辻）辻字本文未詳と云事もて右等の志ハ阡陌を多
 自と云其も廻筋（ツスガ）と云事もて右等の志ハ阡陌を多
 知之與古之と云之是あり若て其町形と云ひ田町
 と云るハ和名枚（ツレ）蒼頡篇云町和名未知田區也と云

るが如く畔を^田界として區別する象形を云て田町と
ハ其廻毛の状縦横は筋通りて実ハ田字の状ありけ
るが珍奇くして如此あむ称美させ御在り坐りた
りけるが故ハ此時迄ハ田部と云て天皇の大御田を
預り仕奉れ。群主^{シラシ}として有けむを更ハ額田田部と云
ふ一郡を定めさせ給へる者ありけり但此額田部の
事ハ允恭天皇御世の故事あり然るハ古事記大國主
神段ハ四名照額田毘道男伊許知迹神と申す神名有
て已ハ神代ハ額田の稱有り又應神天皇二年御紀ハ
額田大仲彦皇子と申す御名も所見て此ハ允恭天皇

の却世所知者一初させ給へる元年壬子よりハ允有
四十年余り古の事あるハ己ハ額田の言有るれば此
姓氏録の説淳たると似たりと思へども猶熟考あり
ハ此ハ上^{百八十}九^丁 天手力雄神の下ハ引る共^高孫亦名
明^四名門命の下^ハ引^り出たる額田部宿祢の額田
りて此^其ハ右の額田馬の謂ハ依れるハ有べしと
其額田部ハ板戸田部と云事もて其ハ傳二十一^{四丁}
上^{七丁}より註るが如く彼鏡作神を天板戸神と申奉
れるハ字の如く^其此事ハ依て四神ハ磐戸を開て出さ
せ御在り坐ける故由を以て然負坐るを況て此天手

力雄神ハ御戸開神ニ御在リ坐セバ共裔孫アル田部
 有ル人(ハ)の部を已クヨリ抜戸田部ト云ケル約リ
 テ何時ト無ク額田トハ成レ。有リケリ然レバ同ト
 額田部ト云中ニ一ハ抜戸田部有リ一ハ額田部有
 リ其来ノ所同ジラズ其心一テ有ル思ヒ分ベシ事
 有リケル但右ノ引ノ神名有ルハ又此二の例トハ同
 ハ山の額有。地ニ在リ田ノ事ト云。有ルヨリ異道
 男ハ泥長有。可ク伊許知迹ハ伊ハ發語許知迹ハ掘
 (土)ニテ此正書ハ掘字を疑土主ノ意有。ハ非
 此神名ノ額田を地名ト一或ハ後ヨリ及不セル名ト
 思ハハ非。若テ其田部ト云。ハ傳十九丁八上九丁ニ
 註ルガ如ク古天皇尊等ノ遍ぬク天下ト所知看サセ

給中ニハ供脚ノ料ノ御田を定めサセ給ヒ田部を
 置テ共事を令掌給ヘラ有リ職負令宮内省官田義解ニ謂供
 御稻田分置畿内者名爲官田也ト見え田令ハ九畿内
 置官田大和攝津各三十町河内山城背各二十町云
 ト有ガ如ク其員數ノ如キハ世ニ沿革有ベシ答ハ
 リト雖モ大較異アルゾ可シ借此ノ田部ハ同令其
 田司年別相替ト有ル義解ニ謂宮内省差管内雜任令
 掌共事是爲田司ト有ル田司ノ如ク一テ世ニ仕奉ル
 リシ有リ然一テ其田部ノ惣格タル人ハ上八十ニ謂
 ヲ多米連ニ一テ其職宮内卿ノ官田を掌ルガ如

△又其三年詔櫻
井田部連之等主
掌屯倉之稅と有
り又孝徳天皇三年
御統と田部と之事
也

くして仕奉りし者ありけり景行天皇五十七年御
紀は冬十月興田部屯倉と所見たるより始て次し御
世しし御名代の御田を置せしむるに就てハ漸次
に甚多く成以て来りけり安閑天皇元年御紀は太
伴大連金村奏請以て小墾田屯倉與毎国田部給賜紬
手媛以櫻井屯倉一本云加賜
茅渟山屯倉與毎国田部給賜香有
媛以難波屯倉與毎国鑿丁給賜宅媛と有て田部ハ其
田司あり鑿丁ハ田令と謂ゆる官田の役丁ハ耕種と
成す成すハ充使ふ為す成すハ充使ふ雜徭と云あり又其下ハ蓋三島竹村屯倉者以河
内縣部曲為田部之元於是乎起と所見はるふと考合

す可き事あり備此額田部を額田田部の切れあり
と云故ハ上ハ引ハ姓氏録攝津国神
別天孫額田部湯坐連
天津彦根命五世孫乎田部連之後也と所見たる乎田
部ハ小田部と云事ありて上ハ多米連の有る其ハ對ハ
たハ称ありむと所思ゆればあり其故ハ右の如く景
行天皇御世ハ田部屯倉と興させ御在り坐て後ハ姓
氏録右京神別
上天神ハ多米宿禰云ハ成務天皇御世仕奉大
炊寮云ハと有る其本系帳ハ天皇御躬為国大歌之時
供御大飯已不聞食仍召氏人等令作御飯特被詔勅小
長田命作備御飯進御之日于吉聞食即垂詔你供奉御

飯甚有秀美平服聞食故召小長田命者特賜嘉名朕御
多米頁賜被詔定多米連也尔時賜大歌政亦任却田之
職賜天皇御命贖之政掌以仕奉也と見えたる其任却
田之職と有ハ田部の惣督として仕奉る謂めて此多
米連の同族額田部と云ハ氏有り本此は由れハ
者あり儲此乎田部連を天津彦根命五世孫と有ハ必
十五世孫あり可事上三十七十一丁註が如くあり
政事要略引ハ姓氏録ハ天日鷲命十四世孫ハ長
田と有れハ小長田命乎田部連ハ共ハ同時の人あり
りて一ハ長と成り一ハ次と成て仕奉れるより始て

天孫本紀ハ十世孫
物部小前高祿連公
田部連等祖と有リ
又

公應神天皇二年神紀ハ云ハ神紀撰田部連銀多保後良
云有り和名枝河内國河内郡櫻井郷額田郡有ハ同族
又ハ云ハ神紀ハ云ハ同族額田郡有ハ同族額田郡有ハ同族
ハ由有リ又ハ云ハ神紀ハ云ハ同族額田郡有ハ同族額田郡有ハ同族
天皇公孫神紀ハ云ハ同族額田郡有ハ同族額田郡有ハ同族
皇太后神紀ハ云ハ同族額田郡有ハ同族額田郡有ハ同族
るハ由有リ又ハ云ハ神紀ハ云ハ同族額田郡有ハ同族額田郡有ハ同族
ハ又河内國河内郡有ハ同族額田郡有ハ同族額田郡有ハ同族

其成務天皇御世より允恭天皇御代に至リ迄ハ唯ハ
田部もて在リと右の額田馬の事より起りて額田部
と云事ハ成れりける者ところ所思えたりけれ
外此
よし其猶田部と云ガ有テ右ハ云ハ如ク其多米宿禰
多米連の同族もて姓氏録大和國神別天神ハ田邊宿
禰神魂命五世孫天日鷲命之後也と有テ多那倍と訓
ハ事ハ云ハ其ハ誤りて田部と同訓あり可事上
上ヨリ云ハ其同族もて天
部ハ按戸田部もて又一種
の同族成れり又安
部連云ハ等主掌氏倉之
古事記姓氏録等ハ額田
遊行章第七一書ハ亦云
湯母及飯噲湯坐允諾部

飯甚有秀美平服聞食故召小長田命者特賜嘉名朕御
多米負賜被詔定多米連也尔時賜大歌政亦任却田之
職賜天皇御命贖之政掌以仕奉也と見えたり其任却
田之職と有ハ田部の惣督として仕奉る謂めて此多
米連の同族額田部と云ハ氏ハ有ハ本此ハ由れハ
者あり儲此乎田部連と天津彦根命五世孫と有ハ必
十五世孫あり可事上三十七註ハ如くあり
政事要略引ハ姓氏録ハ天日鷲命十四世孫ハ長
田と有ハハ小長田命乎田部連ハ共ハ同時の人あり
りて一ハ長カキと成り一ハ次スチと成て仕奉れりより始て

天孫本紀ハ十世孫
物部小前高祿連公
田部連等祖と有リ
又

又和名部名ハ下總
國匝理郡田部波城
の二部有ハ比額田部
ハ由有ハハ事共
あり又下野國足利郡
田部出前河辺郡田部
從前國早良郡田部
多倍と有ハ古の田
部の類あり可

其成務天皇御世より允恭天皇御代ハ至ハ迄ハ唯ハ
田部もて在ハ右の額田馬の事より起りて額田部
と云事ハ成れりける者ところ所思えたりけれ外
よ其猶田部と云ハ有テ右ハ云ハ如ク其多米宿祢
多米連の同族もて姓氏録大和國神別天神ハ田邊宿
祢神魂命五世孫天日鷲命之後也と有ハ多那倍と訓
ハ事ありども其ハ誤りて田部と同訓あり可事上
八十九丁ハ註ハ如ク又上ハ云ハ其同族もて天
手力雄神の子孫あり額田部ハ按戸田部もて又一種
ありと此ハ額田部と其唱の同じく成れりあり又安
閑天皇二年御紀ハ詔櫻井田部連云ハ等主掌ハ倉之
税と有ハ其田部部儲右ハ引ハ古事記姓氏録等ハ額田
部湯坐連と云ハ湯坐ハ海宮遊行章第七一書ハ亦云
彦火火出見尊取婦人為乳母湯母及飯嚼湯坐允諾部

△平氏太子傳に即命
有司定大湯坐若湯
坐而沐浴抱奉と
有り又

備行以奉養焉于時權用佗姫婦以乳養皇子焉此世取
乳母養兒之縁也湯坐即と所見たり是あり古事記玉垣宮段
に此時其後妊身云其所妊之御子既産故出其御子
置於稻城外令白天皇若此御子矣天皇之御子所思看
者可治賜云亦天皇命詔其後言凡子名必母名何稱
是御子之御名云又命詔何為足奉也又問其後白
取御母定大湯坐若湯坐宜足奉故隨其後白以足
奉也と見え又雄略天皇三年御紀に湯人此之史衛と
有を以て其訓を知べし又右引に神代紀あるハ史
衛比登と訓れども其ハ後人の訓僻めたりし者と見

ゆ孝徳天皇二年御紀に取湯部之馬と云事の有り其
湯坐の部と云ありや新紀に湯坐私記曰問此何物
哉答師説坐或作人是調湯之人也と見え口訣に湯坐
者湯殿女也と注一纂疏に湯坐人謂洗浴兒者也と所
見たり其人其氏人の女を以て湯坐と奉れり謂人依れり
者あり又常陸凡土記に多祁許呂命有子八人中男筑
波使主茨城郡湯坐連之初祖也と有を上三而六に引
に国造本紀に須惠国造志賀高穴穗朝茨城国造祖建
許侶命兒大布比意弥命定賜国造と有ハ上總国周准
郡ありが和名枚郷名に同郡額田湯坐の二御有る事

△可して天武天皇
十三年御紀大陽人連
若

又備此湯坐事、就て今
思出け、八時時祭式、
御座并祭と云有り、同録
右京神別下天孫府穴宿
祿條大鷦鷯天皇御世
皇子瑞齒別尊、誕生淡
路宮之時、淡路瑞井水
奉灌、御湯于時、飛杖
花飛入、御湯盆中、色鳴
病、稱天神壽詞云、
見えたるが如く古式有、
思え、後の物、か、御
座記部類、源禮記曰、
永三年五月廿八日皇子誕生
同廿九日御浴殿、紫式
部日記皇子御誕生條
御湯殿の儀、式、
て設せ給、可し御湯
參、其桶居た、
皆自ら覆ひ為せり云
云、之事、見ゆ

△可しと難し右謂
り、額田部湯坐連、河
内國、其地、亦由
有ふ

△又平群郡、班鳩と云
地、有、右額田の地、
む、此、思合、可し事
ハ次、伊賀、額田、所
云、見合、可

△同紀神護景雲三年二
月、石見國美濃郡人
額田部、藤原、
節、有、神名、式、同
郡、深羽、天石、勝、命、神、社、
坐、天津、彦、根、命、御
未、彦、稻、勝、命、可、
事、下、
所、引、
新、川、御、建、石、勝、神、社、
御、事、思、合、可、

據有りといふべし然れども此ハ額田部あり一氏人の

湯坐の職掌を兼て仕奉れり一者、（其在）有、若

湯（坐）連（有）可（事）云（更）あり（天孫本紀）饒速日命

坐連祖と有、是あり、姓氏録左京神別上天神（若湯）

坐宿祢石上同祖と見え攝津國神別天神（若湯坐宿）

祢石上同祖神饒速日命六世孫伊弉我色雄命（之後也）

又河内國神別天神（若湯坐連）膳杵磯丹杵穗命（之後也）

也と有、此故其額田部連の本貫ハ和名抄（即名）大和國

平群郡額田奴加多と有、是あり、可し河内國河内郡

額田沼加多と有、此ハ上ノ謂ゆ、應神天皇ノ子額

田大仲彦皇子の住給へる地（其天）此額田部連

の稱の未起るざり一以前より然る地名なれば此と

ハ異ふ、其平群郡のあり可し事ハ其隣あり添下郡

菅田神社神名式（山城國神）に見えたるを姓氏録（別天神）

菅田首天久斯麻比止都命（之後也）と有、以て證と為

べし、又（上ノ事）同録、額田部河田連を葛印本（但田）

と有り、若其然るあり、バ城上郡（引田）と云地有り、其

但續紀ハ河田連と有、バ容易ハ改む可く

ざるあり、又和名抄郷名（桑名郡）額田沼加多朝明郡

額田沼加多と有、神名式（朝明郡）伊賀流我神社見

えたり、己より引、姓氏録（左京神別）額田部天津彦

根命孫意富伊弉都命（之後也）と有、是あり、又桑名郡

△美濃國池田郡額田
上野目甘樂郡額部
奴加倍

多度神社 大名神 御在坐ハ其天津彦根命ニ渡ルセ給
ヘ事傳十五 二百七 註ガ如ク又同郡桑名神社
二座ト有ハ同録 右京神別 桑名首天津彦根命男天
久之比命之後也ト有ハ是ヨテ其同族アリ又額田神
社ハ本ヨリ上の例アレバ何レモ額田部連の所由有
ル者ニ多ハ有ケ。又河曲郡高市神社有ハ同録右京
三世孫彦伊賀部命之後也ト有ハ合ヒ又鈴鹿郡天
一畝用神社有ハ古語拾遺ニ天目一箇命筑紫伊勢志
部祖也ト有ハ思合セられたルハ悉ク此伊勢國ニ
ハ由有ハ事アリ又和名枚ノ參河國額田郡額田加太備
リ上總國周津郡額田郡越前國足羽郡額田郡額田加太備
中國哲多郡額部奴加多倍備後國三谿郡額田長門國
豊浦郡奴加倍筑前國早良郡額田奴加多ト有ハ
此の一群多ハ有ベク又 判力 額田部宗祿ニ由有ハ

▽万葉十三卷ニ吾思皇
子命者春遊若狹櫻於
之遠人侍之下道湯登
之而回見所遊ト見え
ルハ今昔物語ニ大和國
敷下郡ニ彌槻寺ト事
有リト云ハ事有ハ神
樂猿舞ニ宇惠川支也
多名加ハ毛利也ト有
レハ甲中ハ城下郡の地名
ト見えリ
△乃ハ上ノ額田部湯
坐連天津彦根命子
明立天御影命之後也
ト有ハ承テ云ハ

有シ。○古事記ニハ猶天津日子根命ノ裔ニ倭田中
直倭淹知造高市縣主蒲生稻寸三枝部造等の氏ト有
リ其倭田中直ハ神名式又和名枚ノ郡卿名共ニ更ニ
考メテ所無ニ者アリ口次有ハ倭淹知造ハ姓氏録 左京神別
下天 孫 倭淹知造額田部湯坐連同祖ト見え又 大和國神別
ニ奄知造天津彦根 命 十四世孫建凝命之後也ト所見
リ 出雲屋生記 楠建郡未官者ト有ハ知造見ナリ又
神名式ニ大和國城下郡倭恩智神社 歟 有ハ或説ニ
恩ト淹トハ言通ヒテ一アリト云リ△此地アリヤ猶考

△同郡鏡作坐天照神孫神
三ノ大和國十市郡大和村
鏡造也ト有ハ十市郡
の鏡造也ト有ハ

△美濃國池田郡額田
上野國甘梁郡額部
奴加倍

多度神社 大 名神 御在 一坐ハ其天津彦根命ニ渡ルセ給
ハ事傳十五 二百七十 註ガ如ク又同郡桑名神社
二座ト有ハ同録 右京神別 桑名首天津彦根命男天
久之比命之後也ト有ハ是ヨテ其同族アリ又額田神
社ハ本ヨリ上ノ例アレバ何レモ額田部連ノ所由有
ル者ニ多ハ有ケル
又河内郡高市神社有ハ同録右京
三世孫彦伊賀部命之後也ト有ハ合ヒ又鈴鹿郡天
一畝用神社有ハ古語拾遺ニ天目一箇命筑紫伊勢志
部祖也ト有ハ思合セラレバ悉ク此伊勢國ニ
ハ由有ハ事アリ又和名枚ノ參河國額田郡額田加太備
リ上總國周津郡額田郡越前國足羽郡額田郡額田加太備
中國哲多郡額部奴加多倍備後國三谿郡額田郡長門國
豐浦郡奴加倍筑前國早良郡額田郡奴加多ト有ハ
此ノ一群多モ有ベク又 手カ 額田部宿禰ニ由有ハ

▽天竺十三丁ニ吾思皇
子命者春遊者殖槻於
之遠人侍之下道湯登
之而回見所遊ト見え
ルハ今昔物語ニ大和國
敷下郡ニ殖槻寺ト事
有リト云ハ事有ハ神
樂殖春ニ宇惠川支也
多多加ヲ毛利也ト有
レハ田中ハ城下郡地名
ト見えリ
△乃ハ上ニ額田部湯
坐連天津彦根命子
明立天御影命之後也
ト有ハ承テ云ハリ

有シ。 ○古事記ニハ猶天津日子根命ノ裔ニ倭田中
直倭淹知造高市縣主蒲生稻寸三枝部造等ノ氏ト有
リ其倭田中直ハ神名式又和名枚ノ郡卿名共ニ更ニ
考メテ所無ニ者アリ又次有ハ倭淹知造ハ姓氏録 左京神別
下天 子奄知造額田部湯坐連同祖ト見え又 大和國神別
孫 子奄知造天津彦根 命 十四世孫建凝命之後也ト所見
ニ奄知造天津彦根 命 十四世孫建凝命之後也ト所見
出雲風土記楯縫郡末官表下向年知在見云アリ又
神名式ニ大和國城下郡倭恩智神社 欽 有ハ或説ニ
恩ト淹トハ言通ヒテ一アリト云リ△此地アリヤ猶考
メ可キ事アリクシ
又天皇本紀 仲 景行天皇ノ御子
等ノ中ニ日向襲津彦命奄智君祖
又豐門別命奄智首祖ト見え天孫本紀ニ饒速日命九
世孫物部笠志連公奄智護連等祖ト有ハ同トク大和

△此は連姓と書
ハハハハハ

国の同じ淹知は高市縣主ハ姓氏録右京神別
下天孫ハ高市
連額田部同祖天津彦根命三世孫彦伊賀都命之後也
又和泉國神
別天神高市縣主天津彦根命十四世孫建許呂命
之後也ト所見たハ是あり天武天皇元年御紀ハ高市
郡大領高市縣主許梅儵忽口閉而不能言也三日之後
方著神以言吾者高市杜所居名事代主神云々也言訖
則醒矣故是以便遣許梅而祭ト有ハ如ク此時まで縣
主ありしを其十二年冬十月乙卯朔己未高市縣主賜
姓曰連ト有り万葉一十七ハ高市連古人云々或云高
市連黒人と出た。此二人共ハ藤原朝御世の人あり△

續紀ハ養老七年十二月丁酉放官婢花從良賜高市姓
ト見え又天平二十年二月己未授高市連大国外從五
位下ト有り然るハ同八月辛丑賜外從五位下高市大國
連姓ト有ハ己ハ高市連ト有ハ不審ト事あり又天
平勝寶元年十二月 授高市連真麻呂外從五位下
ト見ゆ神名式ハ大和國高市郡高市御縣神社名神
大月
次新ト有ハ其氏社ハ御在ハ坐ベシ清和天皇實録ハ
貞觀元年正月廿七日甲申奉授大和國從五位下高市
御縣神從五位上ト有ハ是あり但傳十四八十
七丁ハ註ハ
ガ如ク祈年月次第祭詞ハ依ハ古大和國六縣より供

御の菜蔬を奉れりば其由縁て其縣に御食津神
 を祀奉りせ給へりて縣主ハ其御縣を預りて專其
 祭祀の事を兼主れり多し有けり
大同類聚方ハ加
波須利藥大和国
 川辺の知傳高市雄意麻呂乃方と有り其氏人不めり
 和名枚即名ハ大和国高市多介知と有る是あり因云
 右の高市連黒人の事却紀ハ就て考ふ所無し懐風
 藻ハ隱士氏黒人と有ハ宜しく其頃世ハ隱れたり
又其大和真麻呂二人の外ハ豊足屋守等
紀ハ見ゆ
 四月御祭宜文ハ吾皇御孫尊波大倭国乎安国登所知
 食ハ天津神国津神乎祭給留敵時仁天穗日命乃和御魂
 乎八咫乃鏡仁取託八重柳葉仁取懸天出雲乃国利彦

健忍雄心命此国到給比川楸田乃邑
仁志 国造乃新
 仁造奉留御室仁天乃小菅乎苜敷天乃八十笥乎献利
 次乃四村人導奈之奉利志奴乃谷川乎汴利天翔奇日
 乃嶽仁齋比奉利国乃真保良止崇奉利奥山乃雲井仁
 遠哉高山波春秋乃祭毛意仁任世物止其後仁卜定天志
 親仁饋留昨野邊乃甘美加岡乃上仁宮柱太敷立天高
 天原仁千木高知天奇日乃嶽仁座天穗日命西宮尔座
 天夷鳥命推殖仁座健御熊野大人命三柱乃神乃却名
 乎称天云今年乃四月乃中乃亥乃日乃朝日乃豊栄
 登利故事乎追比尋天川楸田乃邑乃倉鶴加小野仁伊

提麻佐志米三柱乃神仁蒲生直乃遠祖於保加夜都比
古命乎相副天四柱乃神乃御前仁云いと見え又其正
遷宮宣文の吾皇御孫尊乃所知食須磯隱蒲生乃国乎
登古之陪仁見霽^加座天安国止静米麻母良比奉利と
も見えたる其磯隱蒲生乃国と云は和名枚郡名よ
近江国蒲生加萬不と有る是より備右ハ其社傳よ由
よ神武天皇の大御世よ出雲国より彦健忍雄心命彼
国よ御在坐す天穗日命と近江国よ移ろハ一奉よ
れ一時の事よて右よ国造と有ハ即蒲生直祖於保加
夜都比古命よて此の蒲生稻寸の遠祖ある可し其加

夜と云ハ雄略天皇御紀よ謂ゆ近江來田綿蚊屋野
の事よて和名枚御名よ愛智郡蚊野と有る是より又
右の三神の鎮り御在坐す昨野邊乃甘美加岡ハ式
よ謂ゆ蒲生郡馬見岡神社よ御在坐て其鎮座の
事と紀貫之朝臣の東筒銘よ欽明天皇御宇六年觀瑞
以創祠於錦嶽云いと見えたる此を其社説よ欽明天
皇御宇六年蒲生稻置三摩侶山部連羽咋兩人よ御託
宣の事有て朝廷よ奏聞し社頭を造営奉ると云り備
其於保加夜都比古神社ハ古よ川楸田とも神調田と
も云りし地よて今上野田村と云よ坐一蒲直稻寸三

△傳十五
十六丁の註
如く

△其御子と思し
て
坂田郡山津照神社
の扶桑略記に延長
六年三月丙午坂田
郡山津照子の明神大上
即山田明神位記請
印と並出たと思ふ
其山田神社の右の
比咩命は御在り坐
る可し若て其山
津照命は

摩侶ハ村井御前と申して共ニ其末社ありと云り又
其攝社ニ必佐御前と申す御在り坐す和名枚郷名ニ
蒲生郡必佐と見え神名式ニ謂ゆ。比都佐神社是
り社記ニ祭神三座天津彦根命山津照命日巢句比咩
命ニ坐るを其本祠ハ一座別ニ小高神と稱して元ハ
彦神山ニ有りと其後必佐御駒調山^{コマツキヤマ}迄一奉れり
依て今彦神山を寶殿^ガ嶽とも云ひ駒調山を駒調の小
高とも御山とも云ふと云り其山津照命と申すハ明
立天御影命の御名ニ意通ひて聞え其日巢句ハ比須
和と訓べりや比須久と訓べりや又ハ比須麻賀

△古の謂ひ。比都佐
の社号ハ此女神は依
れりて都と巢と
相通ひ佐と和と相
通ひれハ比都佐比須
和同言ある者ふ
可し

理と訓べりあるや今知べりざれども此ハ決く
天津彦根命の后神と聞ゆれハ如此く夫婦相並ませ
御在り坐るハ此社を除て佗ハ非しと云思ふ
天正の頃ニ世ニ名高かりし蒲生氏の本貫也此近邊
ニ在りあり備推古天皇二十七年御紀ニ近江國言於
蒲生河有物其形如人と有り天智天皇七年御紀ニ五
月五日天皇縱獵於蒲生野于時天皇第諸王内臣及群
臣皆悉後馬と有ハ万葉一卷ニ天皇遊獵於蒲生野額
田王作歌云くと見えたり此時之事あり又其九年
ニ干時天皇幸蒲生郡遺迹野而觀宮地と有る遺迹野
を比母奴と訓るハ今も其馬見岡神社の御在り坐す
日野町是なり新撰六帖ニ近江あり檜物の里の櫻
花をハ分て折人も無しと有ハ檜物師の寄せて詠
あり此ニ就て又思出たり事有江州綿向社記と云
物ニ枚山明神社跡今必佐御上追村ニ在り地名ニ却
社又鳥居上ふじ云所遺れり祭神大山祇命古此山中
にて宮木を引けり時其本末を伐て祭けり神あり云

上古の宮木を引せり、時、紀伊国三木郡より
 番匠移り、何れも御木と称し、領主三木氏の時
 改て高木と為り、今漸番匠の家一戸残り、今も造
 宮に召す、故に戸課を免せし侍り、古語
 拾遺に手盃帆負彦狹知二神之裔今在紀伊国名草郎
 御木麓香二御採材齋部所居謂之御木云々と有る、合
 へり然れば古より造宮の事は仕奉れり、服は、檜物
 を作れるが名高く、然る地名も出来り、ふめり
 三枝部造、天武天皇十二年御紀、九月乙酉朔丁未
 福草部造賜姓曰連と有る是あり、姓氏録、左京神別、
 三枝部連額田部湯坐同祖顯宗天皇御世喚集諸氏人
 等賜饗醺于時三莖之草生於宮庭採以奉獻仍負姓三
 枝部造と見え又、大和国神別、天孫、三枝部連額田部湯坐連同
 祖天津彦根命十四世孫建許呂命之後也顯宗天皇御

世諸氏賜饗醺于時宮庭有三莖草獻之因賜姓三枝部
 造と有り、備此三枝と云例、万葉五、三丁、父母毛表
 者奈佐我利三枝之中亦乎祢年登と続けた、其三
 莖ある上と中とを云あり、十三、丁、春去先三枝
 幸命在後相莫戀吾妹と有、春、成れば先咲くと福
 草とを係たる、後、相とハ莖と莖と行値ふ所と
 云あり、和名扱、葛、和名佐木久佐、日本紀私記云福草
 と有、枝枝相値葉葉相當也と有、合せ考ふ可し、又
 古今集、此殿、諾も富けり三枝の三、葉、端、四、端、殿
 造の為り、と有り、三葉、四葉と葉、相當り重あゝを云

△神龜三年御紀、
 内裏生玉采朝野道
 俗等作玉采詩賦と
 有、玉采、右の三莖
 草の事、一、謂や、
 瑞草の事、一、其ハ
 下ニ云ベシ

△見え、玉采、催馬樂
 呂の此殿、己乃止乃改
 年、尾毛、三、止美、介、利
 左、支、久、佐、乃、改、礼、左、支、久
 左、乃、美、川、改、與、川、改、乃
 名、加、尔、止、乃、川、久、利、世
 利、也、止、乃、川、久、利、世、利
 也

あり右等の歌共を以て其大凡の状を知り可き者なり
或説よ三枝とハ檜の事あり右の三端四端ハ殿を
 り云ひ三枝之中ハ平祢年登と有リ家ノ寝ノ事あり
 あど云ハハ聞も僻くし 其三枝の事ハ神祇令三枝
 説よて云ハも足らずあり
 祭義解ハ調率川社祭也以三枝華饌酒躑祭故曰三枝
 也と見え集解ハ秋云伊謝川社祭大神氏宗定而祭氏
 不
 定者不祭即大神族類之神也以三枝花巖躑而祭供此
 三巖靈和靈祭也と見えたり四時祭式ハ三枝祭三座
 率川社云云右三社幣物依前件付祝等令供祭と有て其
 料物の中ハ酒料稻五百束神と有ハ右の酒躑ハ充べ
 税
 料是あり右の以三枝華饌酒躑祭故曰三枝也と有

養光年中左大臣藤
 史建子守 御母三島
 御狹井神 荒魂命
 命 兩神社奉齋馬

を徴す可き文ハ大三輪三社注進次第記ハ春日三枝
 神社媛踏鞞五十鈴媛命也小懸田宮御宇天皇御世大
 三輪君白堤從兼勅立社於春日邑率川坂岡兩處奉齋媛
 踏鞞五十鈴命大物主命也平城宮御宇天皇益造兩社
 之相殿為三座又始行三枝祭是大三輪氏長奉社之と
 所見たり三枝神社と大倭神社注進状ハ率川神社
 大神氏家牒曰小治田豊浦宮御宇天皇推御世建大神
 古
 御子神姫踏鞞五
 十鈴命 宮於春日率川邑本名狹
 井川邑 大神君白堤
 奉齋之大寶年中始行祭祭礼今三枝祭是也中
 有
 是もて次ハ別社三枝御子社傳聞狹井神之子事代主

神と有る此祭神の事ハ論ハ有る事あぐ共ハ
用無其ハ次章第ニ書ク故ハ今此を傳ハ委ねて概ニ上ある率川神社の下
ハ本名狹井川邑と云ハ共祭神の中ハ狹井神ハ御在
一坐セバ謂ゆる三枝神社あり次ある三枝御子社ハ
共御子神の由よて其文ハ狹井神之子と有と合せて
三枝と狹井と同物ある事ハ自然ハ生れて出来る事
あり然レバ公事根源三枝祭の頭言引ハ古事記狹井川の下ハ
其河謂佐韋河由者於其河邊山由理草多在故取其山
由理草之名號佐韋河也山由理草之本名云佐韋也
有る文を引るあり実ハ奇一ハ迄克合へりける壺井

義知説ハ所謂三枝華今之山由利也と云ハ冠辞考ハ
も佐韋草佐紀草音相通ひ理ハ叶ハ共祭ハ四月よて
由理の咲く頃あれハ旁叶ハ可シ此ハ依レバ彼御庭
ハ生けむも由理ありけむと云レたるハ然ハ言ハ
り但佐紀ハ佐韋の通音を用ゆるハ有へらぐず山
百合草ハ一莖よて花の咲く所三枝有て末の
廣ク大あるを幸福の義ハ取て福草トハ云ハありハ頭
昭説ハ三枝ハ野干カスガキあり彼草末廣けれバ祝ヒハ寄す
と云ハ野干の事ハ信ふ可らぐずと雖も彼草末廣
けれバ祝ハ寄すと云ハ福草の名義を説ハ足レハ若

△古事記近飛鳥宮
殿ハ市邊王の御齒の
御事と云せし御
葉者如三枝押齒坐
也と喻ハられし三
莖ハ支れたるも押
齒の由あり若て

△古神皇三事御紀の
謂ゆる玉來の瑞草
と聞ゆるは合せて

△本草和名草類の
薺花一名鹿隱忍
和名佐支久佐奈名
美乃波と見えて此
より佐岐久佐の名有
るに皆

あり△治部省式は福草と有る下は瑞草也朱草別名也
生宗齋中と云ふハ瑞草と有を以て考ふるは靈芝の
類と聞ゆる此等の一莖よりて末の三枝は別れたるを
以て云稱ある時ハ右の百合又ハ野干又ハ靈芝の類
を「福草」とハ源氏 卷ノ聲ヲ添給ヘシ 佐岐久佐ノ末ツ方ニシテ云事有テ其末ト云リ
斯れば此の三枝部連の下は庭有三莖草
と云ふハ百合も在れ野干も在れ然る饗燕を賜
ハる程の僅の間は忽ち生出けむハ靈芝あるもて△右
の三枝祭の山百合あるとハ本より異物もして同名同義あり
ける者ありけり 或人頃者神祇令の三枝祭の事を注
りと云りとぞ其ハ風俗譜の荒田は安良太仁於不留
止見久佐乃波奈天仁川見礼天見也戸末井良年奈加

△神祇令の五夏三
枝祭と見え四時祭
式より三月祭の鎮
花祭と四月祭の大
忌祭との間は置
て三枝祭と見ゆ

川太衣と有ハ荒田の生ふる富草の花を手採入れ
て宮へ参りむ中つ大兄と云事にて実ハ稲花とも何
とも知べくもざるを何より有けむ中古の歌ハ稲の
事を富草と詠ふ一二首有ハ其より出たる者あり
や富草花ハ稲の事も為よ右の三枝祭ハ公事根源
は四月祭の部は列ねられ拾芥扱も四月撰吉日事
三枝祭と出たれば未苗を植へ時より至りさるあり
此時は稲花の咲たむころ天地の變と云べき事ふ
りけれ奇怪の説を吐とハ云
ふと余りある事共あり ○天津彦根命の齋の紀
記は漏れも猶有り姓氏録山城国神別天孫神菅由首天久
斯麻比止都命之後也と有り神名式は大和国添下郡
菅田神社御在坐すハ其神を祀れよて此は起れ
る姓あり今平群郡の方も属て菅田村と云有り即是
るて歌詞は菅田の野邊ふと詠る地此と云あり又同

鏡示奉天照太御神之時天照太御神逾思奇而稍自戸
出而臨坐之時云々と有が如く彼鏡を招奉る御形と
して祈申されしを其御戸を細開て見行ハ一御在
坐て稍戸より出させ給へる事天戸間見命と申奉
る所以ありけり傳二十五丁註るが如く神名式
河内国河内郡石切劔箭命神社二座と有ハ石凝劔祖
より鏡作神と此神とを祭る有可まと思合す可
者あり攝津国菟原郡河内国魂神社劔と有ハ此御社
即此天戸間見命と申す御名を以て祀奉れ御社
ハ有べき又此郡ハ御影と云地の有て世ハ名高まハ

又此明立天御影命ハ由有る車車あり又和名枚御名
も思合す可し此社今五毛村と云ハ立せ御在し坐て
俗ハ天神社と云と云り又ハ御影村ハ御影森有り森
中ハ太神宮と申す有り此ありとも云り若五毛又河
内郡別津夫江連天津彦根命之後也ハ難波の舊地圖
天孫津夫江連天津彦根命之後也ハ難波の舊地圖
を攷るハ圓江と云ハ入江有て式外古歌多く詠所ありて圓神社と
申す御社今ハ御霊社の地主神として御在し坐し又其都
夫良を轉して後ハ津村と云ハふとを思ひ且すハ決
く此地ハ起れハ氏名と聞えたり神名式ハ河内国讚
良郡御机神社見えたを此神あり由云るを今思
ふハ机ハ都久惠よりツキエて衝居の義あり假字相違ハハ

天照太御神
天照太御神
天照太御神
天照太御神
天照太御神
天照太御神
天照太御神
天照太御神
天照太御神
天照太御神

造ハ共トモ定め難けれ（律大正連の）も同國の事あれハ由無
シトハ云ベクらず又大縣主同祖上ト有ハ右の天津
彦根命之後也ト有承テ有アリ古事記朝倉官段ハ
所見た志幾之大縣主ハ此トハ異アル可シ（因云右）
御在坐御靈社ハ傳十二卷六十七丁ハ引紀
略ハ正曆五年六月廿七日丁未為疫神修御靈會木工
寮修理職造神輿ニ基安置北野船岡山云都人士女
齋持幣帛不知幾千人礼了送難波海と見えたり斯
の時子ト其難波トも祀れり社ハ遺れりト
其國江ある所ハ圓神社御在坐其地を借て御
靈會ハ行ひた又（大和國未）葦田首天孫比止都命之後
者ト有ハ古事記若櫻宮段ハ葛城之曾都毘古之子葦
田高祿ト所見たる人の本居の地トて今 郡の

△但同河内國未定難
姓ハ葦田且都早古
乃命之後也ト有ハ
ハ今定めて之難
ハ後人の定之後
可

内ハ在の地名トて此ハ起れハ氏アル可シ和名抄御
名ハ伊勢國三重郡葦田安之美多ト有テ式ハ同郡足
見田神社見えたるハ上（三百七）ハ之ガ如ク彼國ハ
額田部又ハ桑名首（或ハ）高市首ト同族トて所縁有
る地名有り又神名も出たれば此國ハ住る葦田氏ハ
必有つらむ事を曉る可シ又備後國郡名ハ葦田安之
太ト見え又葦田郷有リ神名式ハ同郡國高依彦神社
御在坐ハ此ハ葦田首有テ其祖神を祀れるハ
ヤ有ハ又但馬國氣多郡葦田神社ト云ハ有リ（但此）
葦田ハ何れハ本より阿志院ト訓ハ事あり然ハ此
伊勢ハ限リて安之美多ト云ハ由有る事ハ

又其次、犬上縣主天津彦根命之後也。又屬集造同上
彦根命之後也。見えぬ。犬上縣主、和名抄即名、
近江国犬上以奴加三と有る是あり。天武天皇元年、却
紀、襲不破而軍于犬上川濱と有る如く、美濃国不破
郡と相接ける地あり。上三而八下十二に註る、同国蒲生郡比
部佐神社の祭神天津彦根命、山津照命、日巢勾比咩命
坐を坂田郡（山津照神社）犬上郡山田神社、却在し
坐を扶桑略記、延長六年五月二日、丙午坂田郡山
津照子乃明神、犬上郡山田明神位記請印と一より出
れば、其山田、地名よて日巢勾比咩命あり。可く思合

せられ、又愛智郡輕野神社、蒲生直祖於保加夜部比
古命坐ふと実よ由有る事ありけり。又傳十五二而八十
六、引る樹下山門神系圖、小治津彦根命者近江国彦
根明神也と有る坂田郡よて式外神よハ坐せども今
も彦根と云地名の有る古より所以有る事あり。此
有けり。此天津彦根命と治津彦根命とを分て別神と
傳へり。此れとも其實ハ同じ神と渡りせ給へり。
事已云々如くふ。次、舊集造同上彦根命之後也と
有る許母都米と訓べり。や許母都と訓べり。や若
後の方あり。履仲天皇五年、却紀、狹名來田之蔭津
之命と云ふ妃の御名の蔭津と等し（地名ふ）。可く又先の

方ありむるハ舊集の字の如くめて職員令掃部司ハ
掌コモレロニカス薦席牀蕘及云ハ事と有ハ鋪設を諸国より集めて
司ハ收るふとの事を掌れハ若然ハ有るむハ
此ハ職名あり何れハ宜けむ未考得ざるあり又未
雜姓和 茨木造天津彦根命之後者と有ハ已上三而六十
泉国 茨城国造の所ハ云リ又和泉国神 別天孫未使主天津彦根
命子彦稻勝命之後也と有る未ハ(備)借字めて崇神天
皇七年御紀ハ謂ゆる茅渟縣陶邑の事ある可神名
大鳥郡陶荒田神社ニ座歟と出たれども此祖神ハ
非ハあり今ハ堺津の南ハ陶畧莊と云地有る是あり
○次活津彦根命ハ諸本共ハ活目津彦根命と有る纂

疏本ハ其目と月と作れり今ハ新宮本ハ其字無
ク依れり此と活目津と作爲る事ハ不良ハトクゾ
事と聞えて已ク私記ハ目字不讀と云リ通證ハ今
按活目津彦根命出仁天皇曰活目入彦舊事天孫本紀
有活目邑萬葉集云活道是也と云れども活目入彦と
申奉ハ大御名ハ地名と聞え活道ハ山名あり然ハ此
顯国の地名を以て称奉ハ可クハ非ハ此餘の例ハ
随ひて活津と心得て然ハ可キ事あり其義ハ已ハ傳
十五二而八十五丁云リ○次煨速命ハ上章并三一書ハ
煨之連速の命と出たり新宮本ハ此神名を省きたるハ

高政直
内庫

消印
入庫
圖書

誰や一人^{つありけし}心有て削去り六男を改めて五男と為し
 よハ有べけれども其本も^{前章}第三一書ハ諸本と共に異
 ありざれば此も一説ありあぐり其實ハ誤れの傳ふ
 る事已^二傳十八^{九丁}み註^三が如し○熊野大隅命ハ
 此ハ前章第三一書と同じ傳ふが其ハ熊野忍隅
 命と有り此即大と忍とハ同じ意ありけり證あり其
 ハ傳十九^二百九十八^三十^{七丁}はなり出雲風土記楯縫郡
 伊農御出雲郡伊努御條^四の所見たる国引坐意美豆努
 命即子赤衾伊努意保須美比古佐和氣命と目申す即
 此神^五あり御在し坐ける又此を以て其御祖神と御

